令和８年（2026年）熊本地震

速報（Ver.3）

令和8年9月14日

基礎地盤コンサルタンツ株式会社

地表地震断層から妙見第一橋を望む

はじめに

令和8年7月28日16時27分頃、熊本地方を震源とするM7.1の地震が発生しました。この地震で熊本県宇城市並びに氷川町で震度７を観測し、多くの家屋が倒壊する等、内陸地震特有の被害が発生しました。その後、最大震度5弱をはじめとする余震が頻発しましたが、大局的に緩やかに減少しつつあります（9月8日時点）。

弊社では地震直後から被害調査を開始しました。現在も調査を継続中ですが、被害の実態を知っていただくため、速報の形で公表することと致しました。調査の進捗に伴って内容を追加・更新していく予定です。なお、速報に付したコメント等はあくまで簡単な計測や目視観察に基づくものであり、詳細な計測に基づく見解ではありません。

最後になりましたが、この地震でお亡くなりになりました皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災者の方々が一刻も早い復旧・復興の道を歩まれますよう祈念いたします。

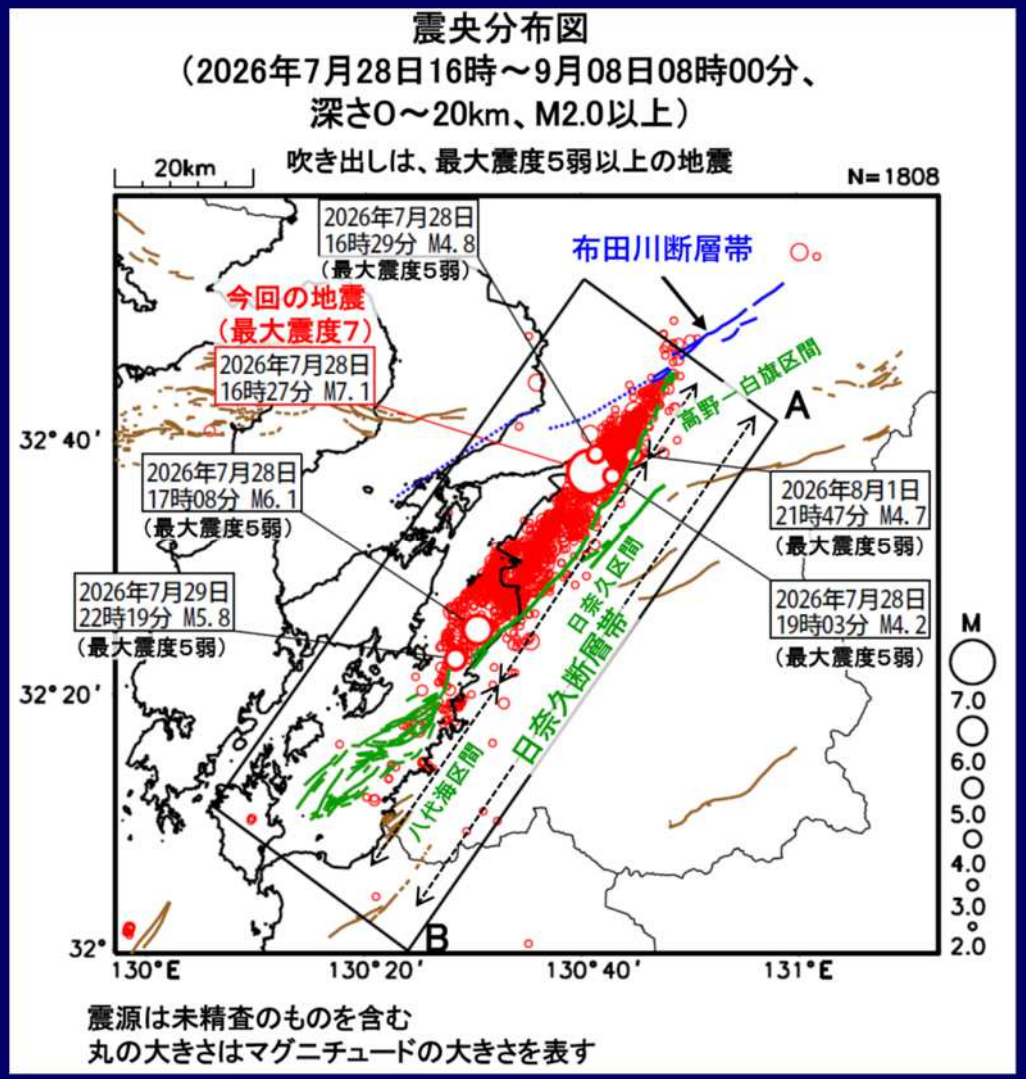
地震・地震動

地震の諸元と特徴

- 発生時刻：2026年7月28日16時27分
- 地震のマグニチュード：　7.1（暫定値）
- 場所及び深さ：熊本県熊本地方(北緯32度37.5分、東経130度40.7分)、
  深さ16km（暫定値）
- 発震機構：北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層で、地殻内で発生した地震
- 最大震度：震度７　熊本県宇城市、氷川町
- 特徴：今回の地震は日奈久断層帯が活動して起こっている。この近傍では、2016年にM7.3の平成28年(2016年)熊本地震が発生し、その2日前に起こったM6.5の地震と合わせて2回の震度7に見舞われている。なお2016年の地震は主に布田川断層帯の活動によるが、日奈久断層帯の北部も活動した。

地震の震央分布

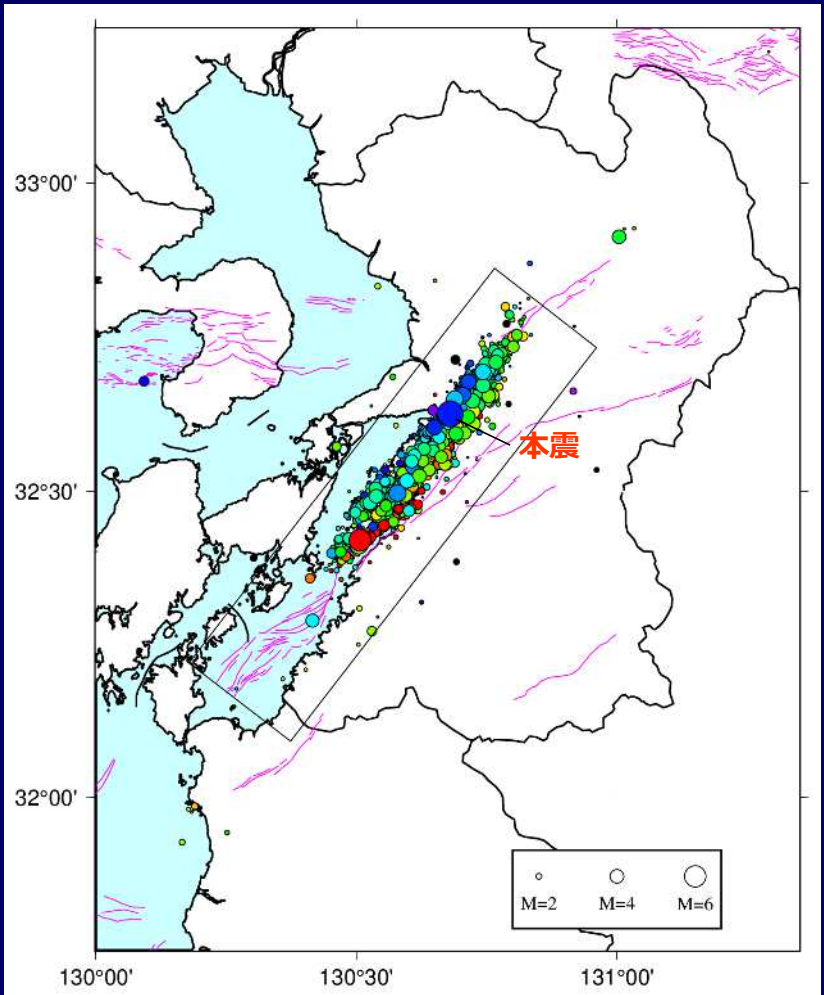
- 今回の地震は、日奈久断層帯のうち、主として中央部の日奈久区間で発生しており、北東部の高野ー白旗区間と南西部の八代海区間でも若干発生している。
- 2016年熊本地震では、北部の布田川断層帯が主として活動したが、その2日前に起こったM6.5の前震は日奈久断層帯の高野ー白旗区間を震源としており、両方とも震度7を記録した。

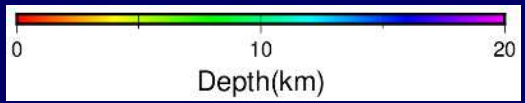


気象庁：「令和8年熊本地震」の活動状況について（令和8年9月8日）

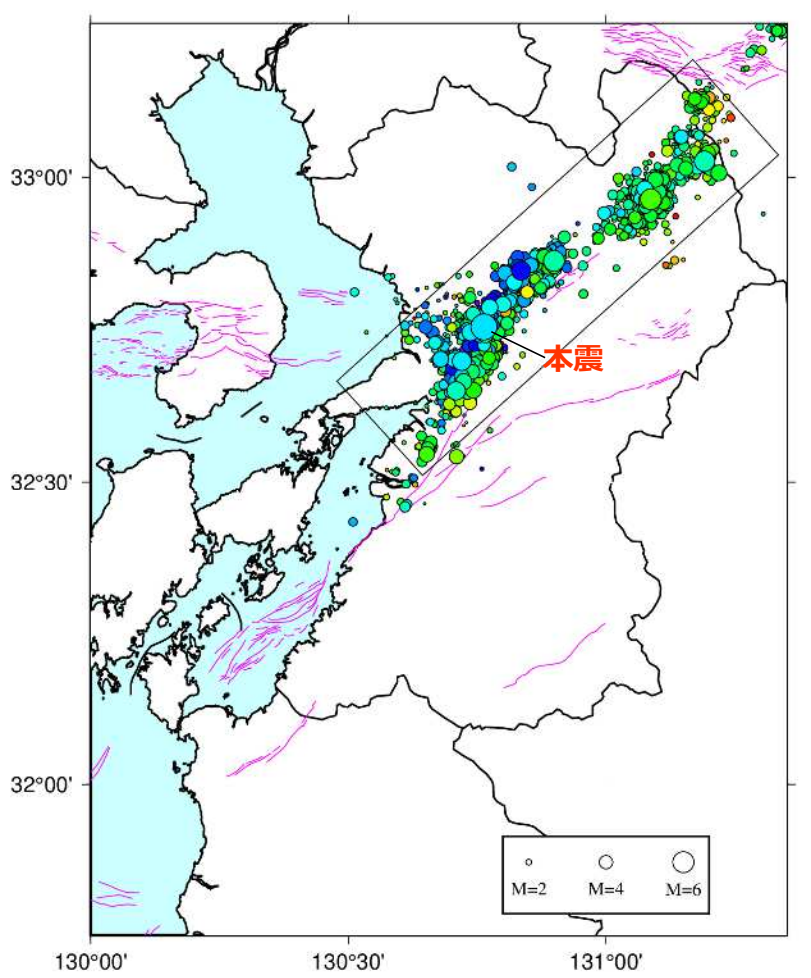
2016年熊本地震との震央分布の比較

令和8年(2026年)熊本地震
（本震発生後1日間）





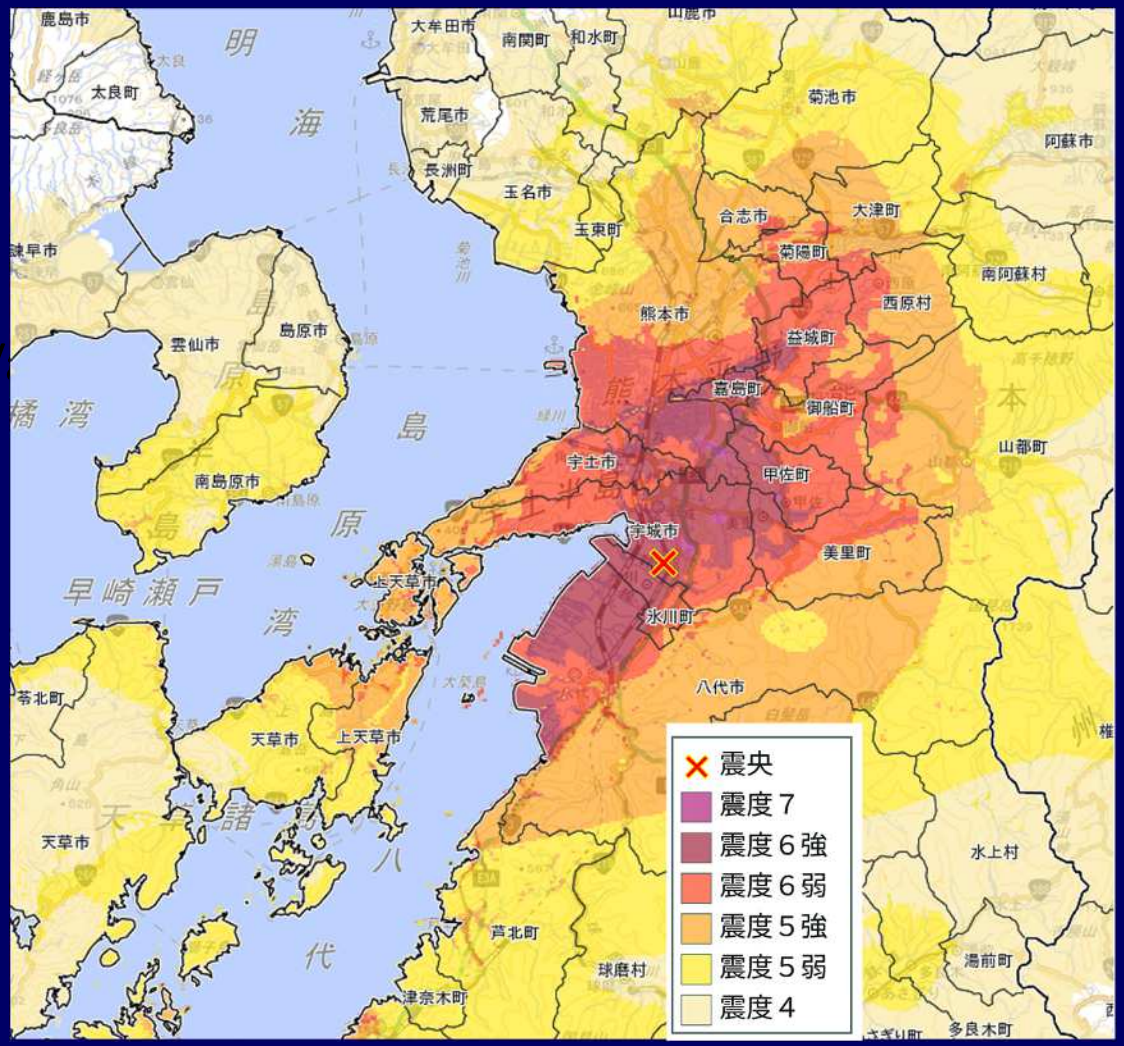
平成28年(2016年)熊本地震
（本震発生後1日間）



気象庁一元化震源データ（速報的なデータ）使用）

本震の推計震度分布

- 震度7の分布域は、熊本市南部の城南町、宇城市豊野町、宇城市小川町、甲佐町横田、氷川町の一部等に及んでいる。
- 熊本市南部、益城町、宇土市、宇城市、甲佐町、氷川町、八代市などの海側の地域は震度6強となっているが、氷川町から八代市の日奈久断層の東側の地域では震度５強から震度6弱と海側に比べて震度がやや小さくなっている。



気象庁：推計震度分布（2026年07月28日16時36分発表）

地震による地殻変動

- 「だいち２号」観測データのSAR干渉解析による地殻変動では、日奈久断層帯の北西部では最大約50cm、南東部では最大約10cmの東向きの変動または隆起が見られる。
- GNSS(全球測位衛星システム)によると、八代市千丁観測点では北東方向に86.6cmの水平変位、31.7cmの沈下が観測されている。

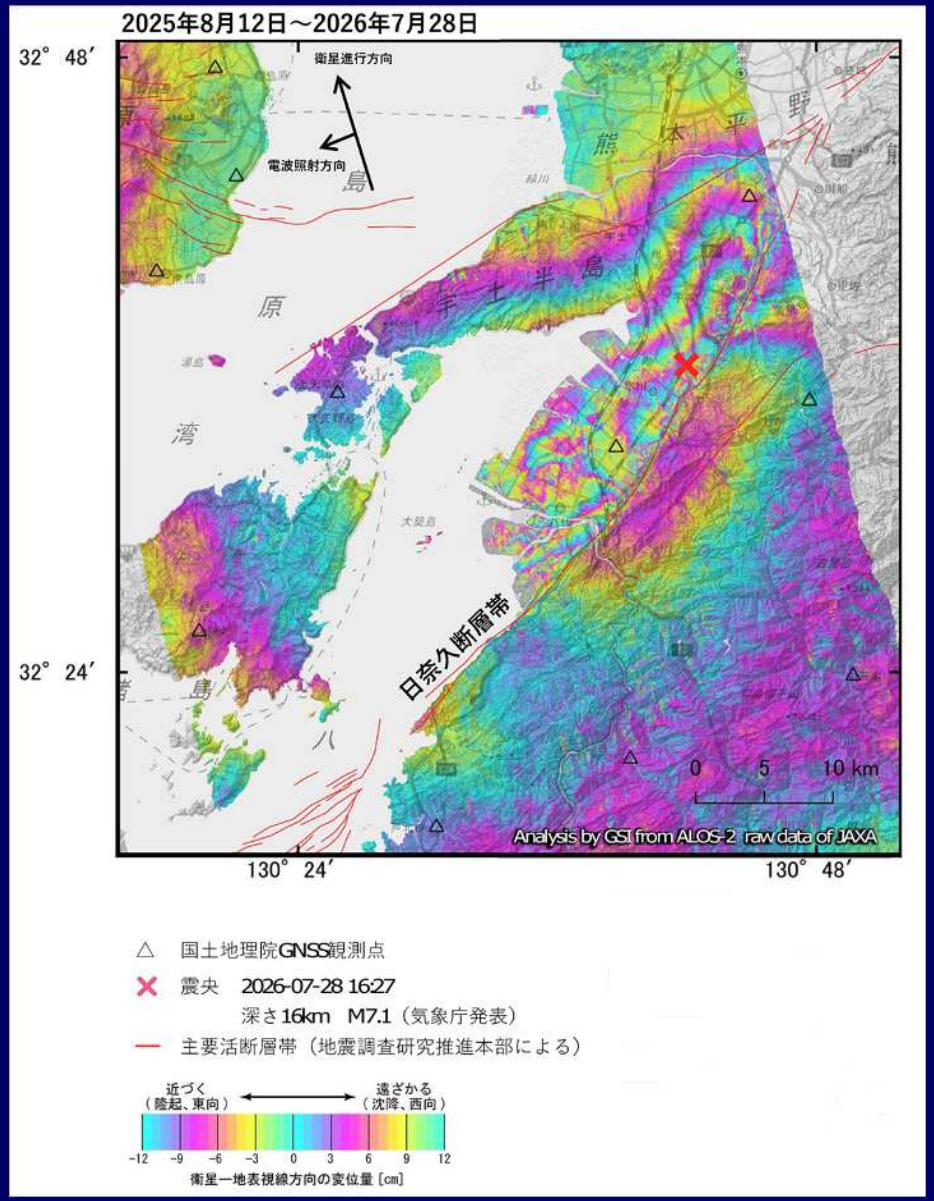
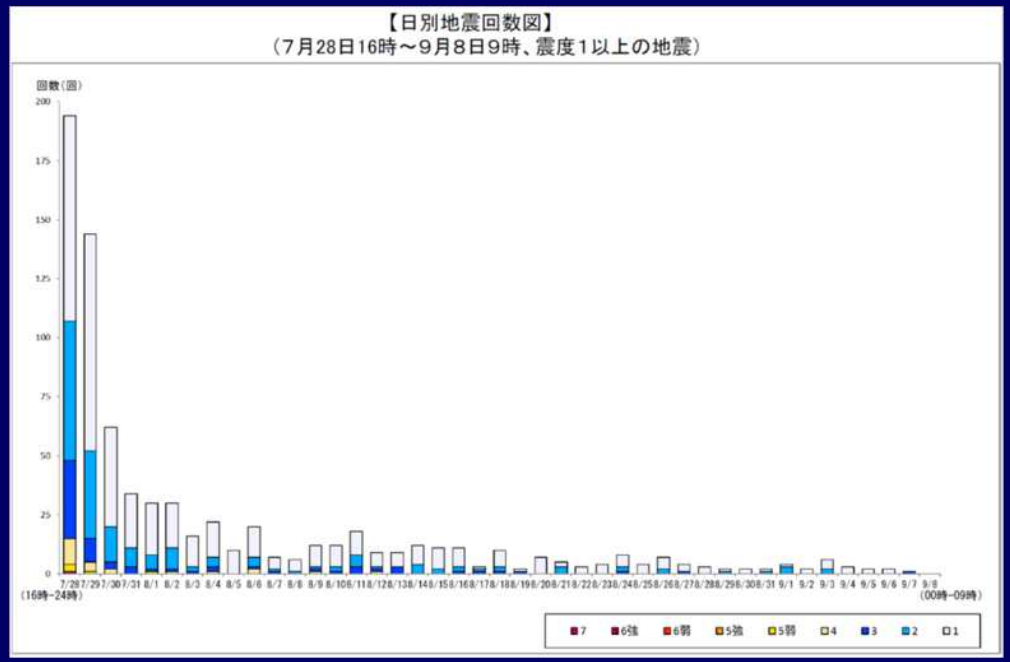


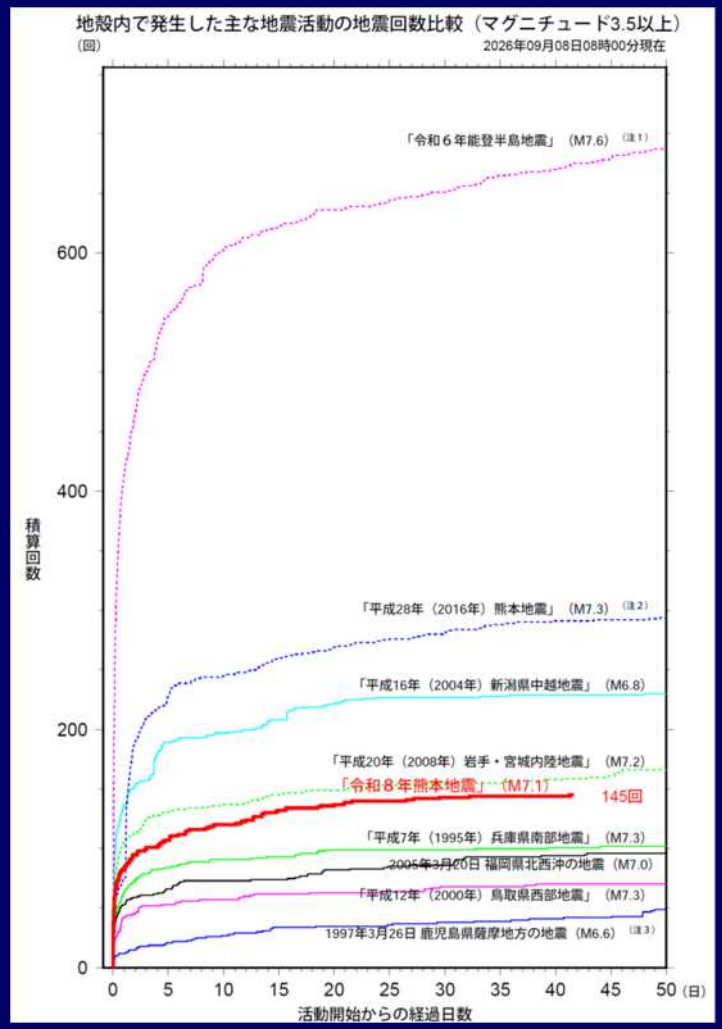
図-1　「だいち２号」観測データのSAR干渉解析による地殻変動*

＊国土地理院：令和8年（2026年）熊本地震に関する情報より抜粋

余震発生回数の変化

- 余震の最大震度は５弱であり、地震活動は順調に減衰している（9月8日現在）。
- 余震の発生回数は、既往の主要被害地震の中では「兵庫県南部地震」（1995年、M7.3)より多く、「岩手・宮城内陸地震」（2008年、M7.2）よりやや少ない程度である。

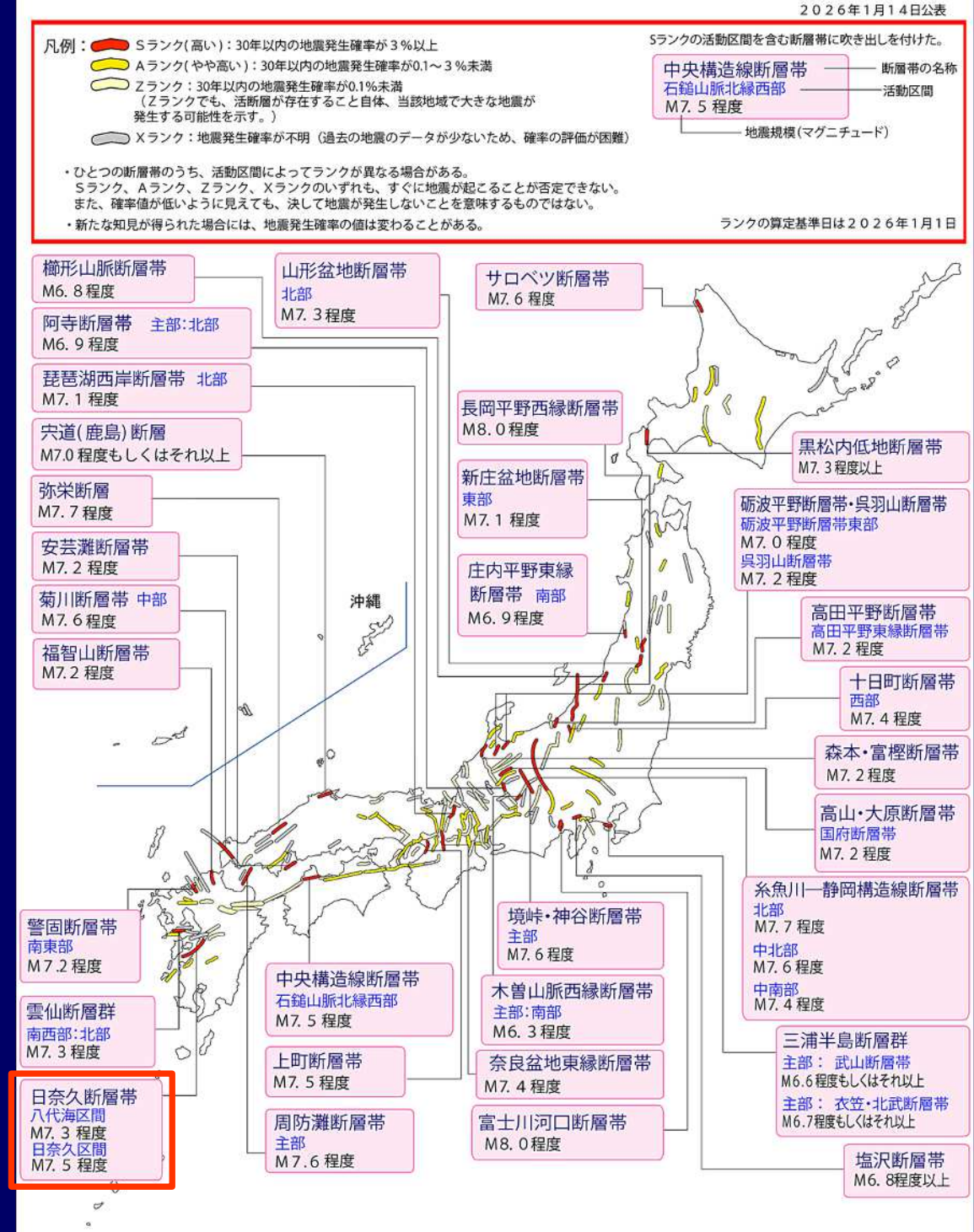




気象庁：「令和8年熊本地震」の活動状況について（令和8年9月8日）

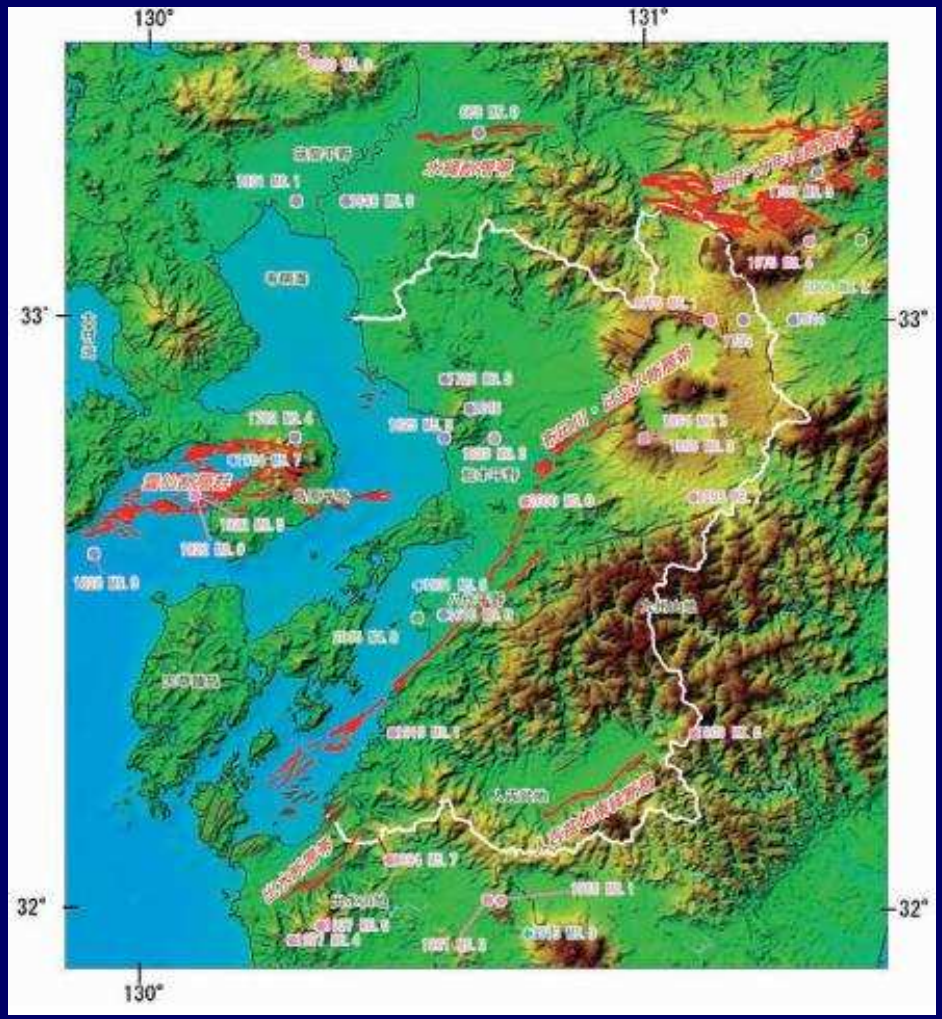
日奈久断層帯の将来の活動評価

- 我が国の主要活断層の評価結果*によれば、日奈久断層帯の将来の活動度はSランク（30年以内の発生確率が3%以上）とされており、発生確率が高い断層帯と評価されていた。
- 今回の地震では、日奈久断層帯のうち、日奈久区間の南西部は活動しておらず、まったく活動しなかった八代海区間と合わせて、将来、地震が発生する可能性があると言われている。



*地震調査研究推進本部：主要活断層の評価結果（2026.1.14公表）より抜粋

熊本県とその周辺の既往の地震活動



熊本県周辺の主な被害地震（～1997）＊

陸域の浅い地震は主に別府－島原地溝帯とその周辺（布田川・日奈久断層帯に沿う地域）で発生しており、阿蘇山周辺と熊本市周辺に多い。

熊本県に被害を及ぼした主な地震＊

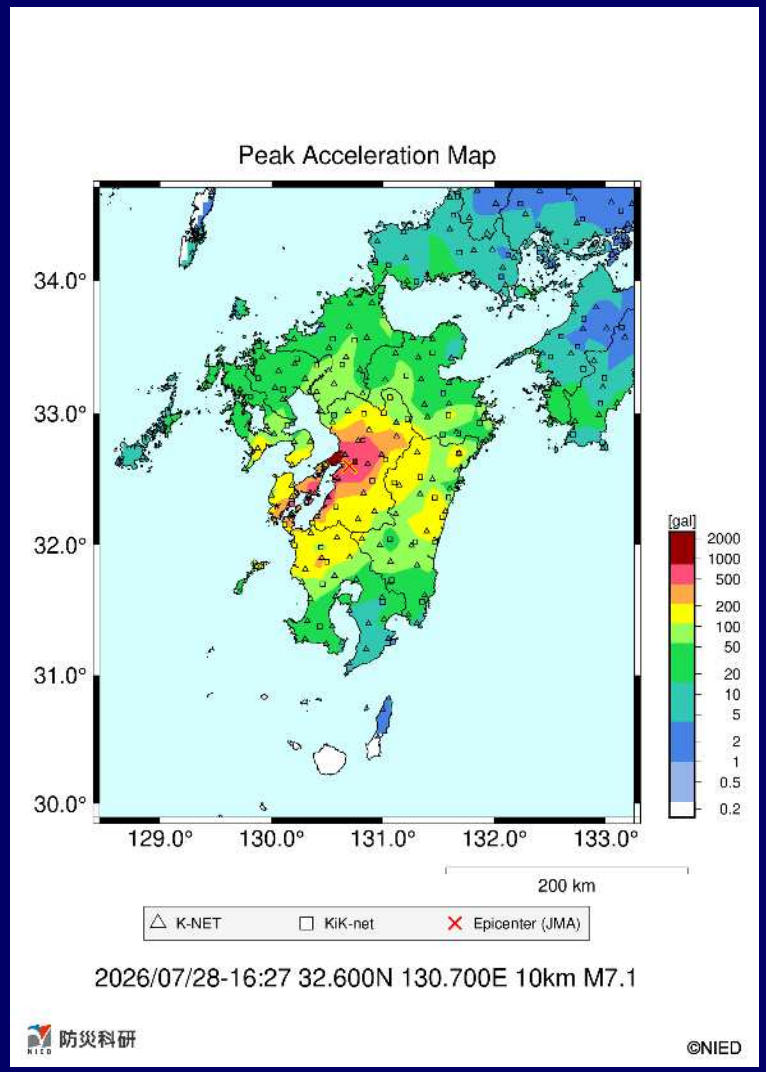
西暦(和暦)	地域(名称)	M	県内の主な被害(カッコは全国での被害)
1619. 5. 1（元和 5）	肥後・八代	6.0	麦島城はじめ公私の家屋が破壊した。
1625. 7.21（寛永 2）	熊本	5.0～6.0	熊本城の火薬庫爆発。天守付近の石壁、城中の石垣に被害。死者約50人。
1707.10.28（宝永 4）	(宝永地震)	8.6	(死者20,000人、家屋全壊60,000棟、同流失20,000棟。)
1723.12.19（享保 8）	肥後・豊後・筑後	6.5	肥後で死者2人、負傷者25人、家屋倒壊980棟。
1769. 8.29（明和 6）	日向・豊後・肥後	7 3/4	延岡城・大分城で被害大。熊本領内でも、死者1人、家屋倒壊115棟。
1854.12.24（安政 1）	(安政南海地震)	8.4	安政東海地震、伊予西部の地震被害と重なり区別が難しい。死者6人、家屋全壊907棟。
1889. 7.28（明治22）	熊本	6.3	熊本市付近で被害大。死者20人、負傷者54人、住家全壊239棟。
1941.11.19（昭和16）	日向灘	7.2	死者2人、負傷者7人、住家・非住家全壊19棟。
1946.12.21（昭和21）	(南海地震)	8.0	死者2人、負傷者1人、住家全壊6棟。
1975. 1.23（昭和50）	阿蘇山北縁	6.1	一の宮町三野地区に被害集中。負傷者10人、住家全壊16棟。

2016.4.16　熊本・阿蘇　(2016年熊本地震)　7.3　益城町・南阿蘇村を中心に死者120人、負傷者2337人

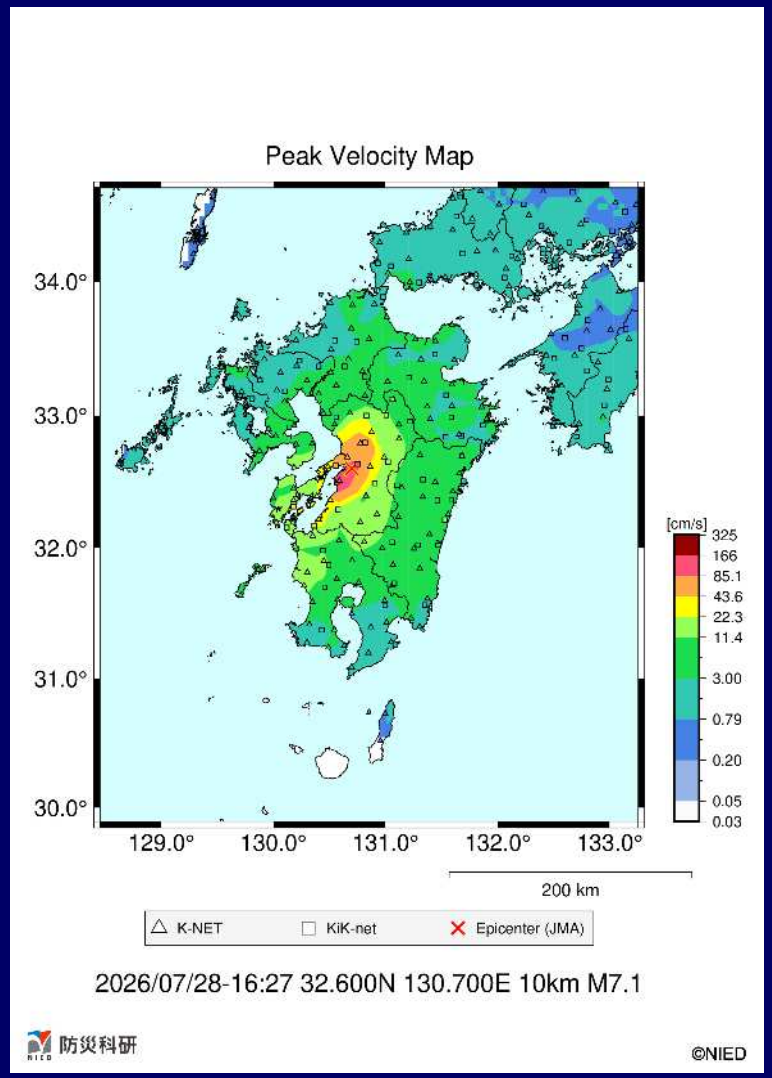
＊地震調査研究本部地震調査委員会編：日本の地震活動－被害地震　から見た地域別の特徴－<第２版>

九州地方の最大加速度・速度分布

- 最大加速度



- 最大速度



「防災科学技術研究所：2026年07月28日　令和８年熊本地震による強震動」より抜粋

最大地震動

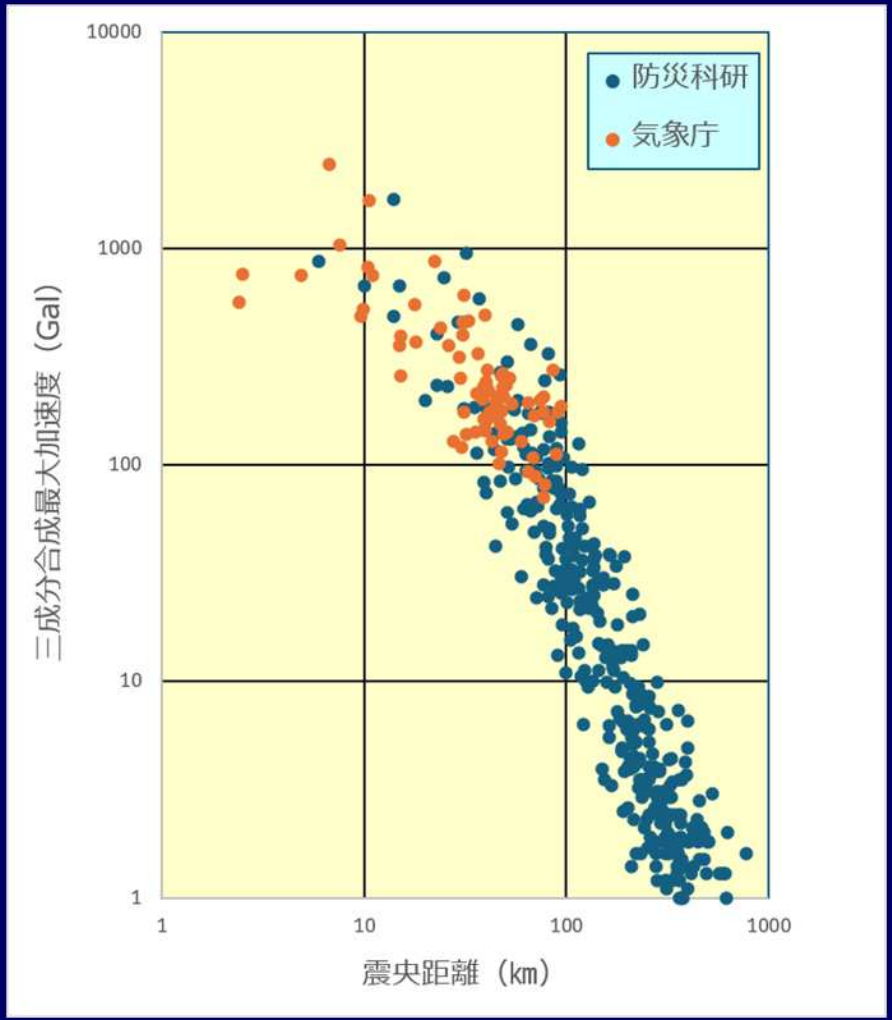
- 震度７および６強の12地点および震度６弱ではあるが加速度あるいは速度が大きい２地点の加速度、速度最大値は下表のとおりである。
- 三成分合成波形で見ると、最大加速度ならびに最大速度は、いずれも宇城市豊野町で観測されている2,438Gal、221.8cm/sである。

データ収集機関	観測地点	震央距離（km）	震度	計測震度	最大加速度（Gal）				最大速度（cm/s）			
					三成分合成	N-S	E-W	U-D	三成分合成	N-S	E-W	U-D
防災科研	KiK-net豊野	6	６強	6.3	864	607	723	841	95.4	70.7	69.9	41.9
	KiK-net三角	14	６弱	5.8	1667	1376	827	635	51.4	49.7	30.0	23.0
	K-NET宇土	10	６強	6.0	669	499	651	329	70.2	67.3	68.4	17.8
	K-NET八代	14	６弱	5.7	483	310	350	302	134.6	94.8	95.7	26.3
	KiK-net益城	25	６強	6.1	725	449	692	259	81.5	50.1	76.2	15.8
気象庁	宇城市豊野町	7	7	6.6	2438	2413	1054	912	221.8	221.4	91.8	42.5
	氷川町島地	5	7	6.5	748	567	696	366	158.7	126.1	134.4	40.4
	八代市千丁町	11	６強	6.4	746	743	329	389	156.8	137.8	100.0	27.7
	八代市鏡町	8	６強	6.2	1029	934	501	604	126.6	97.6	112.7	21.0
	益城町宮園	23	６強	6.1	871	416	838	260	90.6	40.5	90.1	13.3
	熊本美里町馬場	10	６強	6.4	813	573	783	454	112.7	59.5	110.6	23.1
	宇城市松橋町	2	６強	6.1	560	363	513	441	88.8	70.9	69.4	12.6
	宇城市不知火町	3	６強	6.2	761	663	585	437	85.0	84.7	46.0	13.0
	熊本南区城南町	11	６強	6.4	1651	638	965	1340	106.3	72.5	102.7	30.3

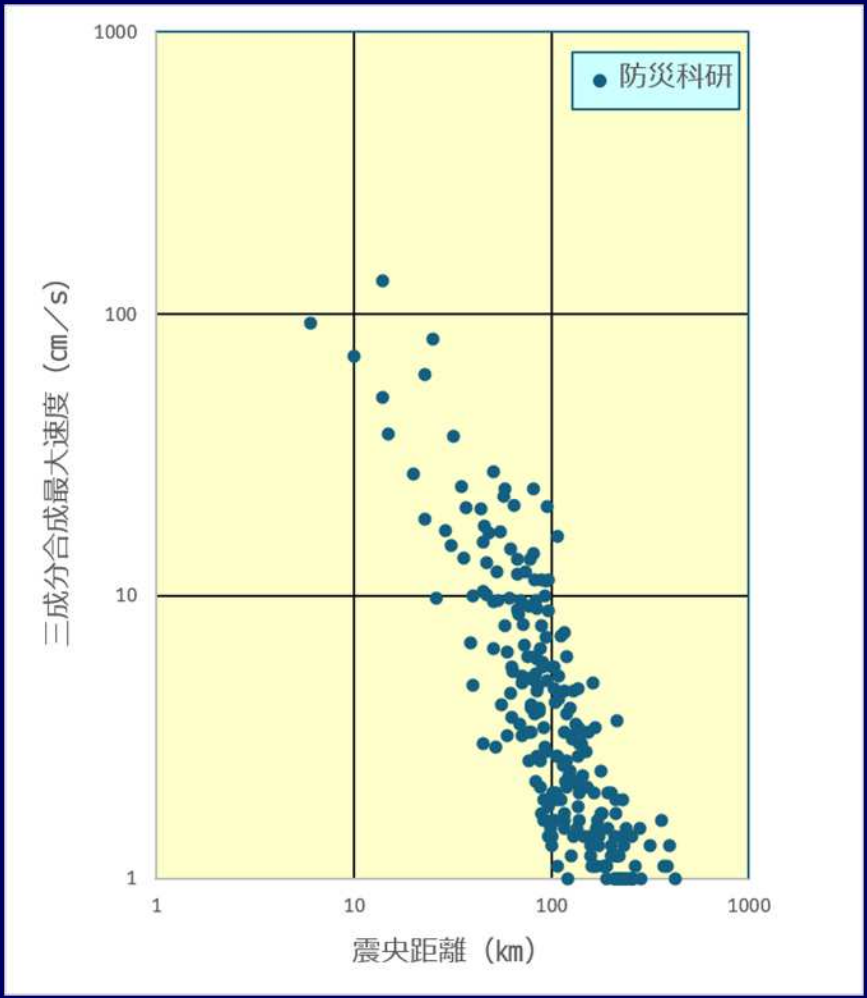
加速度値は気象庁・防災科研データによる。速度値は加速度波形を積分して算定

最大加速度・速度の距離減衰

- 三成分合成最大加速度



- 三成分合成最大速度



※気象庁データは震度５弱以上の地震動のみ使用

上図は気象庁並びに防災科学技術研究所の強震データを使用して作成

地震動の影響（最大加速度と最大速度の関係）

- 図-1には令和８年熊本地震と過去の被害地震の三成分合成波形の最大加速度と最大速度の関係図を示す。
- 図中にはこれまでの経験から構造物に大きな被害が発生すると考えられている最大加速度が800Gal以上かつ最大速度が100cm/s以上の領域（破線）を示す。
- 今回の地震では、この領域に含まれる地点は４地点であるが、他に３地点も境界領域にあり、大きな被害の発生と調和的である。

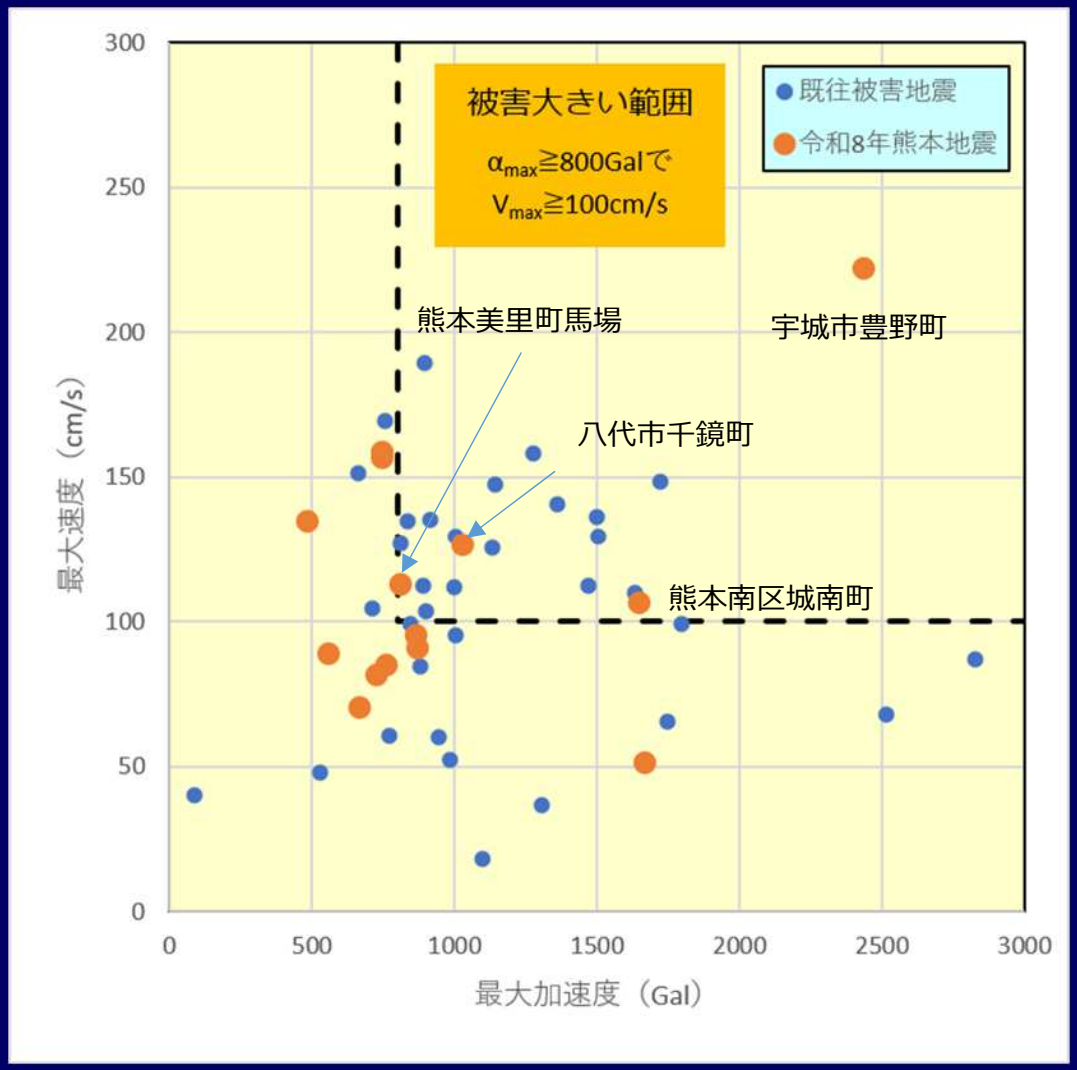


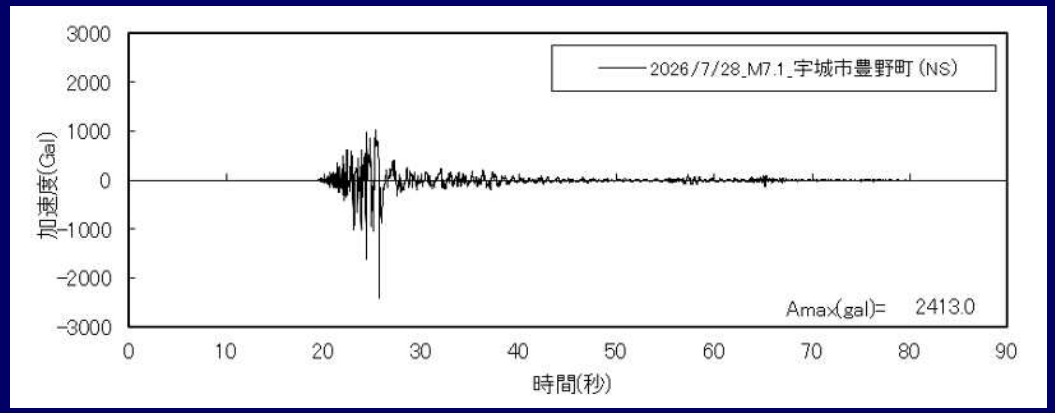
図-1　最大加速度と最大速度の関係

上図は気象庁・防災科学技術研究所の強震データを使用して作成

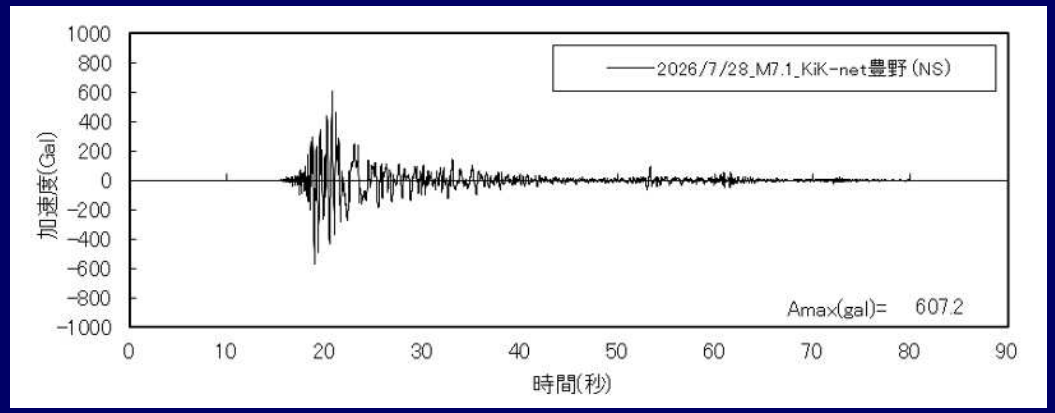
地震波形ー宇城市豊野町の加速度波形の比較

- 宇城市豊野町には気象庁（宇城市豊野町）と防災科学技術研究所（KiK-net豊野）の強震観測地点が約600mほど離れて設置されている。
- 両者の加速度波形（N-S成分）を比較すると、最大値は気象庁で2413Gal、防災科学技術研究所で607Galとかなり異なるが、気象庁の波形にはスパイク状のパルス波が数波含まれており、これが最大値の違いに大きく影響していることがわかる。

宇城市豊野町（気象庁）
N-S加速度波形



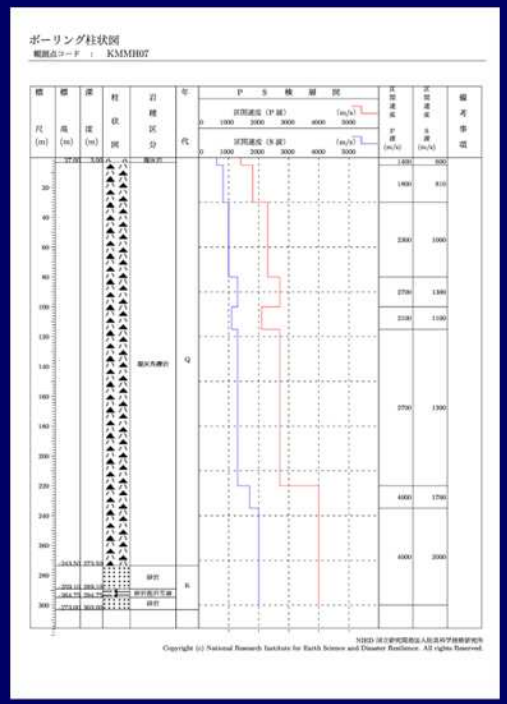
KiK-net豊野（防災科研）
N-S加速度波形



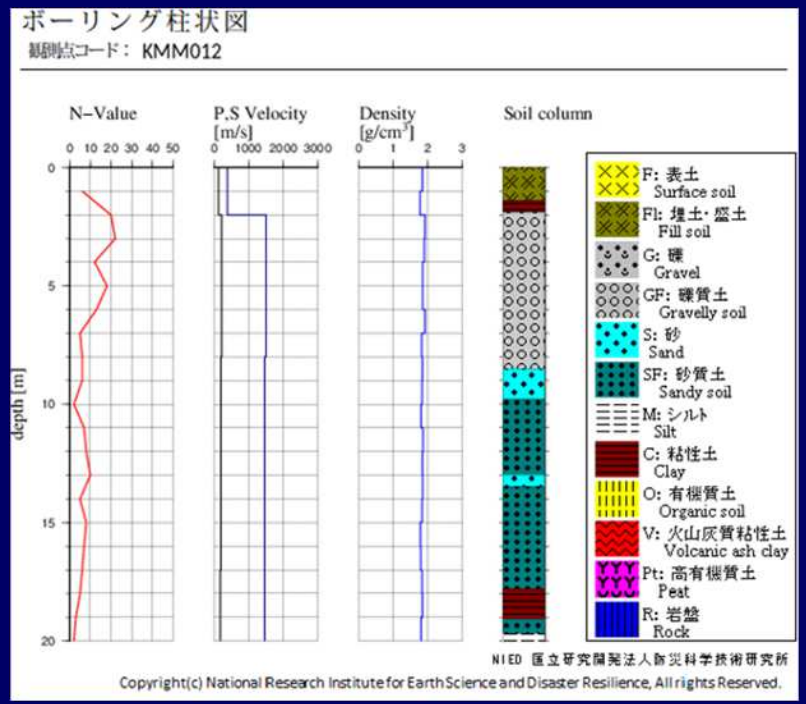
気象庁、防災科研の強震観測データより引用

周波数特性 (1)

- 地震動の建物への影響は、周期 1 秒程度の地震動成分がどの程度大きいかで推測できる。そのためには速度応答スペクトルで評価してみた。
- 次ページには4地点の疑似速度応答スペクトルを示している。①は最大加速度・速度ともに最大であった「宇城市豊野地点」の周波数特性で、N-S成分が1秒付近で大きなピークを示している。②は岩盤上の「三角地点」であり、ピーク周期は0.3秒前後と短い。この地点は最大加速度は大きいが、短周期であるため建物への影響は小さいと考えられる。
- ③は軟弱地盤の[八代地点]で、地盤の影響でピーク周期が3秒程度と長くなっている。④の[八代市鏡町地点]も干拓地の軟弱地盤上にあるため、ピーク周期が1～2秒にあり、建物への影響が大きいと考えられる。



KiK-net三角の土質柱状図

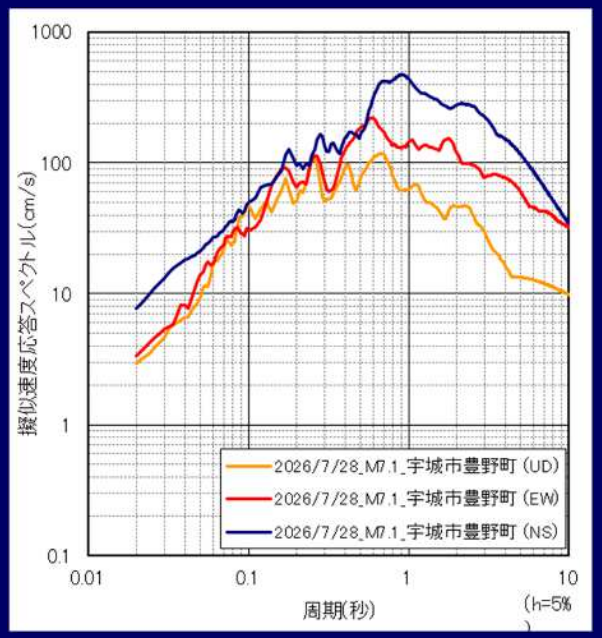


K-NET八代の土質柱状図

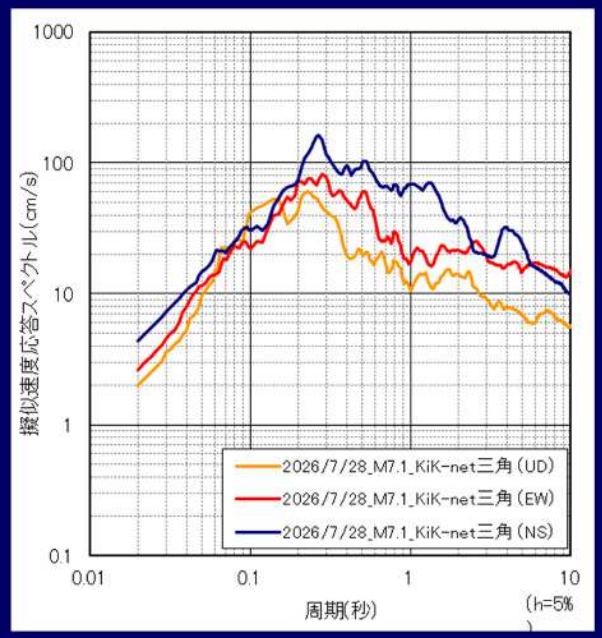
防災科学技術研究所：強震観測網 K-NET・KiK-netより引用

周波数特性 (2)　疑似速度応答スペクトル

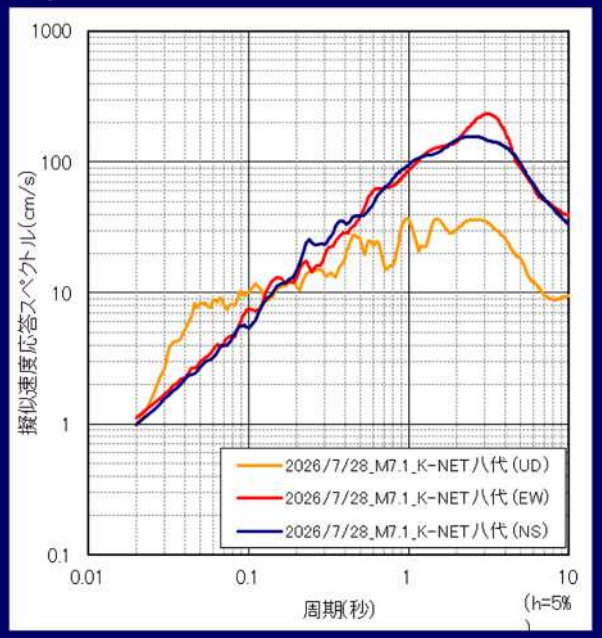
① 宇城市豊野町



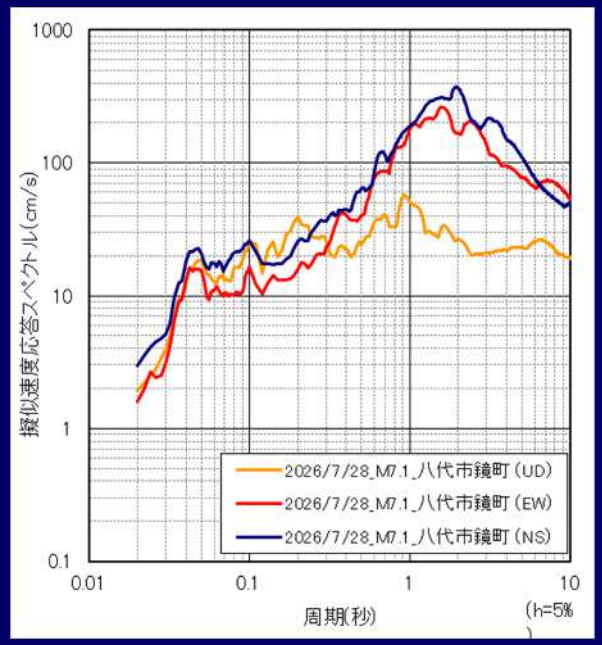
② KiK-net三角



③ K-NET八代



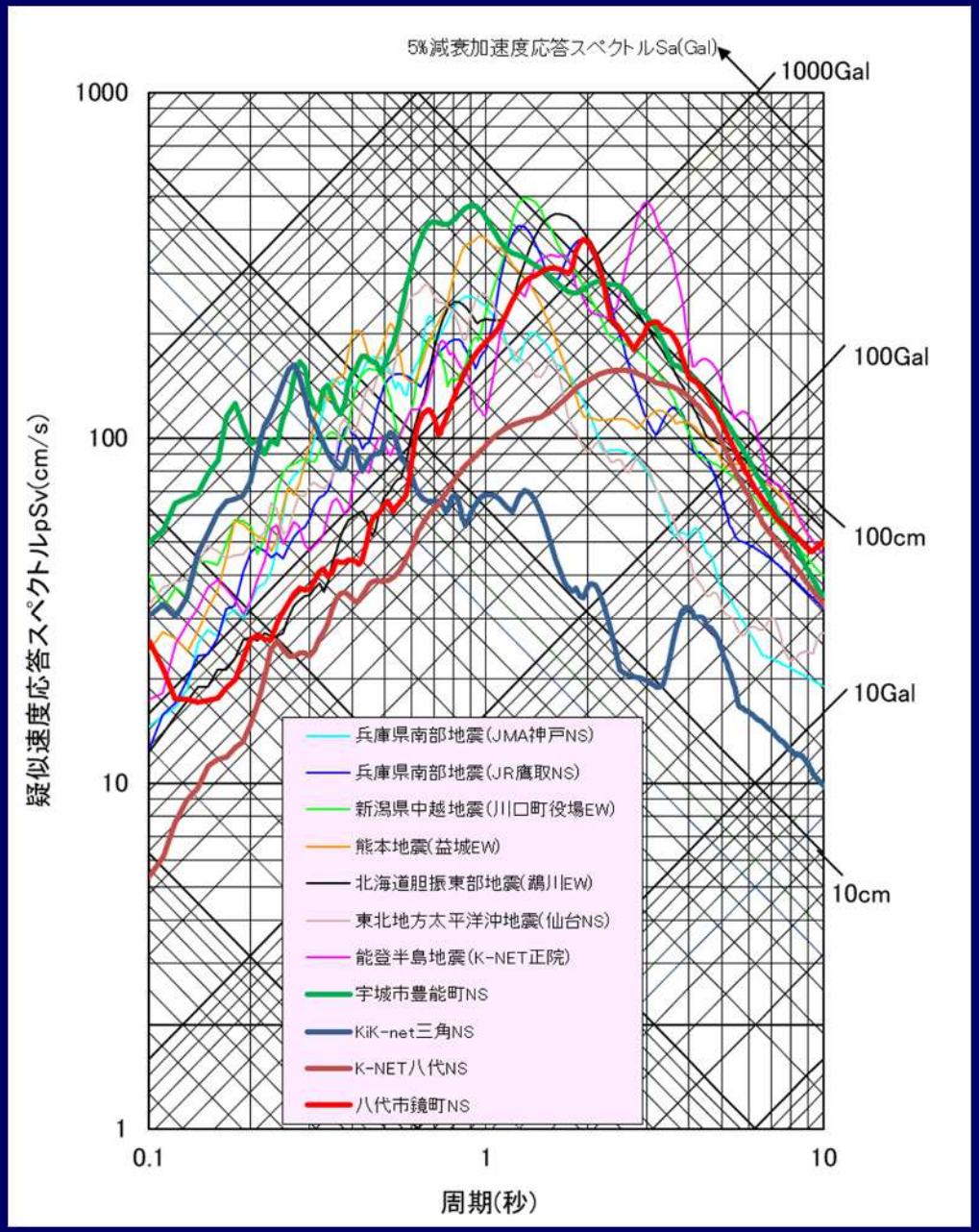
④ 八代市鏡町



気象庁・防災科研の強震データより算定

既往被害地震とのスペクトルの比較

- 既往の被害地震と今回の地震の4地点の疑似速度応答スペクトル（トリパタイト表示）を比較したものを図-1に示す。
- 建物被害の目安とされている速度100cm/s以上は今回の地震では4地点とも超えているが、硬質地盤上に設置されているKiK-net三角では100cm/sを超える周期が0.3秒程度と短周期のため、建物への影響は小さかったのではないかと考えられる。



気象庁・防災科研の強震データより算定

地形・地質

八代平野の地形

- 今回の地震で被害が大きかった宇城市・氷川町・八代市は、図-1に示すよう八代平野と呼ばれる低地に位置している。八代平野は、海岸の長さが約23km、南北約22km、東西約8km、面積230km^{2}の海岸平野である。
- 八代平野は、西は八代海（不知火海）、東は九州山地に挟まれている。九州山地との境界には日奈久断層帯が走っており、断層崖となっている。
- 日奈久断層は、北は布田川断層にまで達しており、南は肥後二見から芦北町田浦を経て、八代海に没している。
- 八代平野の地形は、球磨川や氷川などによる標高10m以下の低平な三角州と17世紀以降の干拓地からなる（図-1参照）。
- 八代平野の北部には九州中央山地を源とする一級河川の球磨川が河口部で厚い土砂を堆積して三角州を形成し、平野中央部には氷川、砂川、大鞘川などの中小河川が八代海に注いでいる。
- 江戸時代以降、干拓が行われて平地が広げられ、現在の八代平野となっている。干拓地は平野全体の2／３を占める。

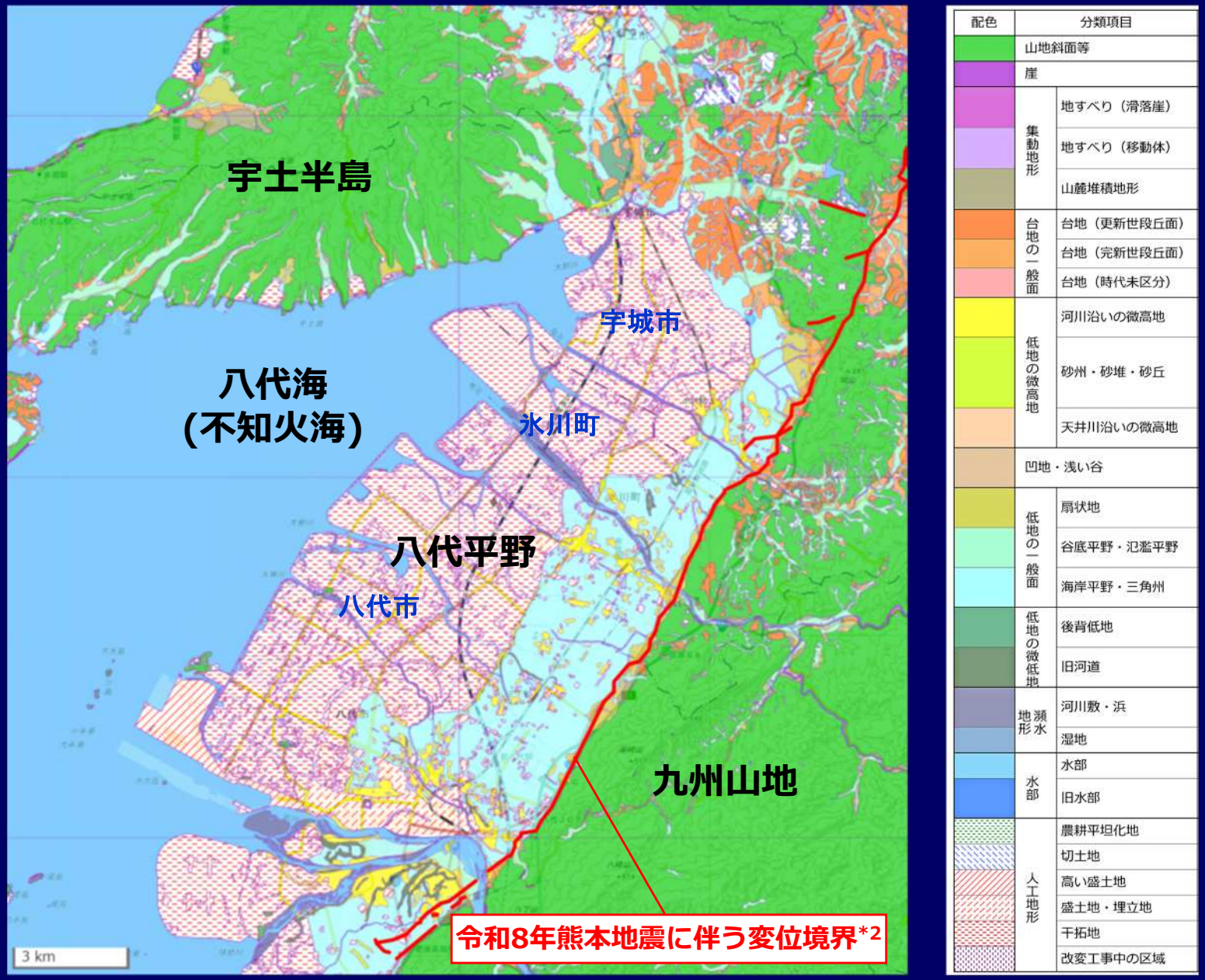


図-1　主要な被災地域の土地条件図*1

＊1　国土地理院：土地条件図より抜粋・加筆

＊2　国土地理院：「だいち２号」及び「だいち４号」の衛星画像解析による令和８年熊本地震に伴う変位境界（速報）」による

八代平野の地質

- 当該地域はGL-400～500mに基盤岩類があり、その上に更新世～完新世の砂礫、粘土、火山噴出物などが厚く堆積していることが知られている（表-1参照）。
- 沖積平野は球磨川などの河川から供給されたシルトや砂などからなる不知火粘土層（有明粘土層に相当）で構成される。
- 表-1に示す八代平野の地質層序表では、完新世の堆積土は、下部にきわめて軟弱なシルトから粘土からなる最大30m程度の厚さの有明粘土相当層が堆積し、上部には干拓土を含む表層土（土砂）が存在する。

表-1　八代平野の地質層序表＊

地質時代		地　層　名	層　相
第四紀	完新世	表層土（干拓土含む）	還元色土砂（酸化色土砂）
		有明粘土層相当層 <K-Ah テフラ>	極めて軟弱なシルト～粘土からなり、腐植物片や貝殻片を含む。礫質層を挟む。暗灰色や暗青色などの還元色。
	更新世	島原海湾層相当層 <AT テフラ>	高有機質の粘土層やピート層を有し、砂質層、礫質層を挟む。AT を挟在する。
		段丘砂礫層	直径 5～15cm の円～亜円礫の礫層。色調は概して酸化色。
		阿蘇 -4 火砕流堆積物	灰白～黄褐色で軽石を含む特徴あり。軽石交じり凝灰質砂
		阿蘇 -4/-3 間堆積物	シルト～粘土からなり、腐植物片、貝殻片を含む。礫質層挟む。
		阿蘇 -3 火砕流堆積物	暗灰色スコリアを含む 軽石交じり凝灰質砂
		阿蘇 -3 火砕流堆積物以前の堆積物	シルト～粘土からなり、砂礫層を挟む。有機物や貝殻片の混入。
中生代～古生代		基盤岩類	変成岩類、花崗岩、石灰岩など

＊荒巻・古澤・田中・長谷：熊本県八代平野の地質構成と地質構造、御所浦白亜紀資料館報、第23号、 p.23～25、2022.

被害の概要

被害の概要　＜人的被害・住家被害＞

- 地震による人的被害は、死者38人、負傷者368人であり、ほとんど熊本県内で発生している（8月31日現在）。
- 住家被害もほとんど熊本県内であり、4万棟弱の建物が被害を受けている。

表-1　地震による人的被害・住家被害集計一覧表

都道府県	人的被害						住家被害			
	死者	行方不明	負傷者		小計	合計	全壊	半壊	一部損壊	合計
			重症	軽傷等						
	人	人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟
福岡県			1	1	2	2			8	8
熊本県	38		33	331	364	402	1,796	3,457	30,985	36,238
大分県				1	1	1				
鹿児島県				1	1	1				
合計	38	0	34	334	368	406	1,796	3,457	30,993	36,246

消防庁：令和8年熊本地震による被害及び消防機関等の対応状況（第63報）、2026年8月31日17時00分

市町村別の人的被害

- 全体の死者38人のうち八代市が20人と約半数を占めている。このうち9人は日本製紙㈱八代工場の煙突倒壊による犠牲者である。
- 嘉島町の死者7人はイオンモール熊本のガス爆発による死者である。

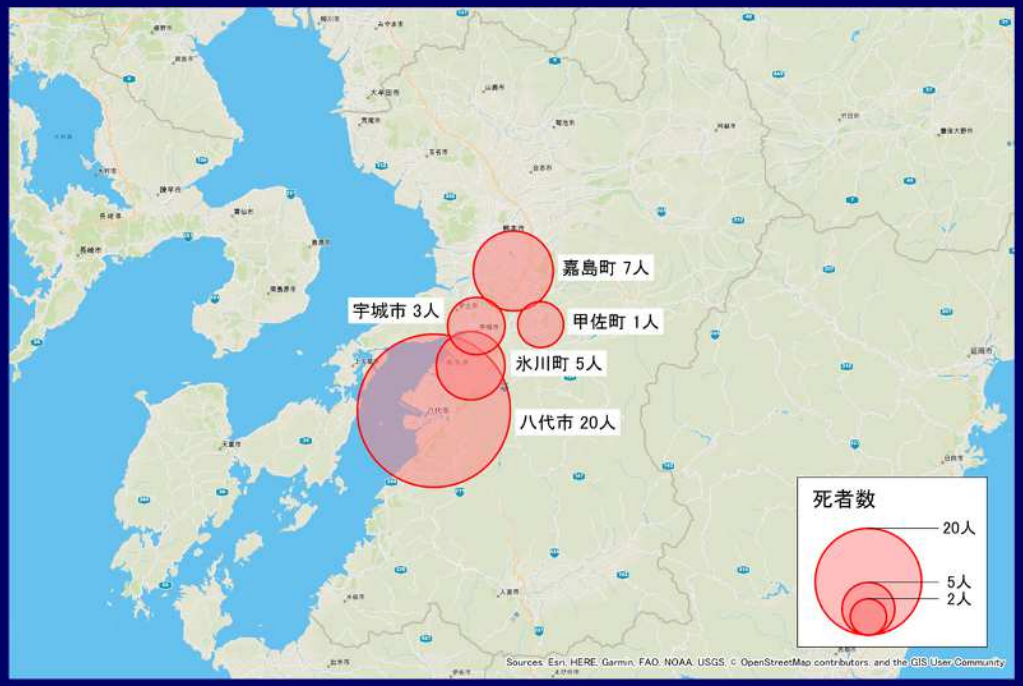


図-1　死者の市町村別分布（9月7日現在）

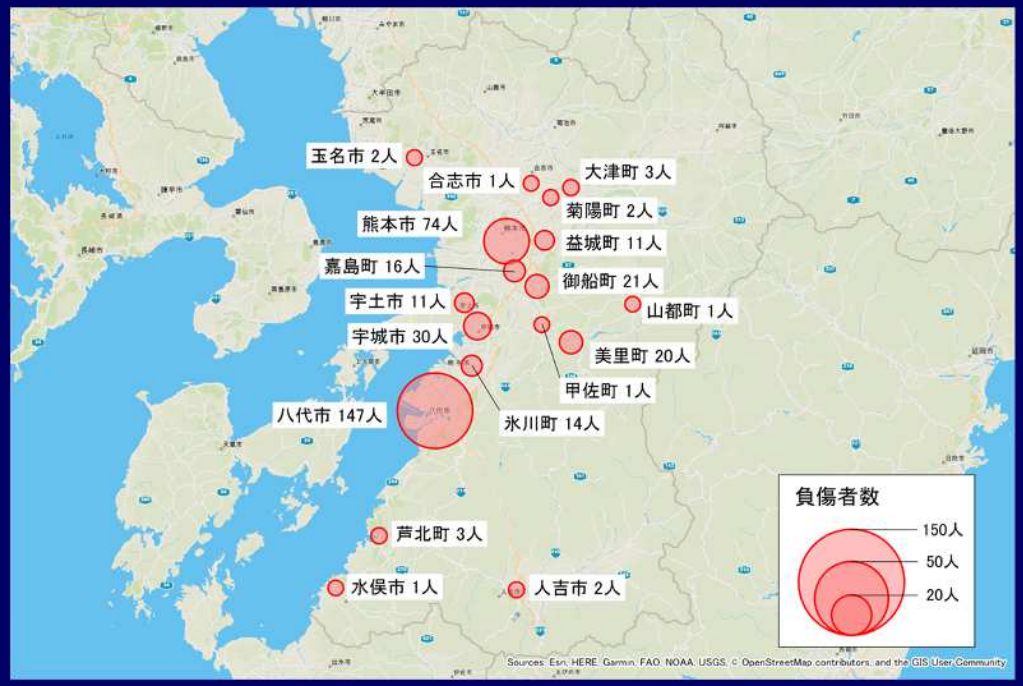


図-2　負傷者の市町村別分布（9月7日現在）

熊本県公表データより作成

市町村別の住家被害

- 住家被害数は熊本市が14,883棟と最も多いが、被害率は3.9%程度である。
- 宇土市と宇城市の住家被害数はそれぞれ7,528棟と10,806棟で宇城市がやや多いが、被害率は47.2%と42.6%で、宇土市がやや大きい。
- 氷川町の住家被害数は3,176棟であるが、被害率は81.7%、全壊率も13.5%で市町村の中で最も高い(注)。

(注) 氷川町は母数となる総住宅数が不明であるため、数字が総住宅数に近い世帯数を母数として被害率を算定している。

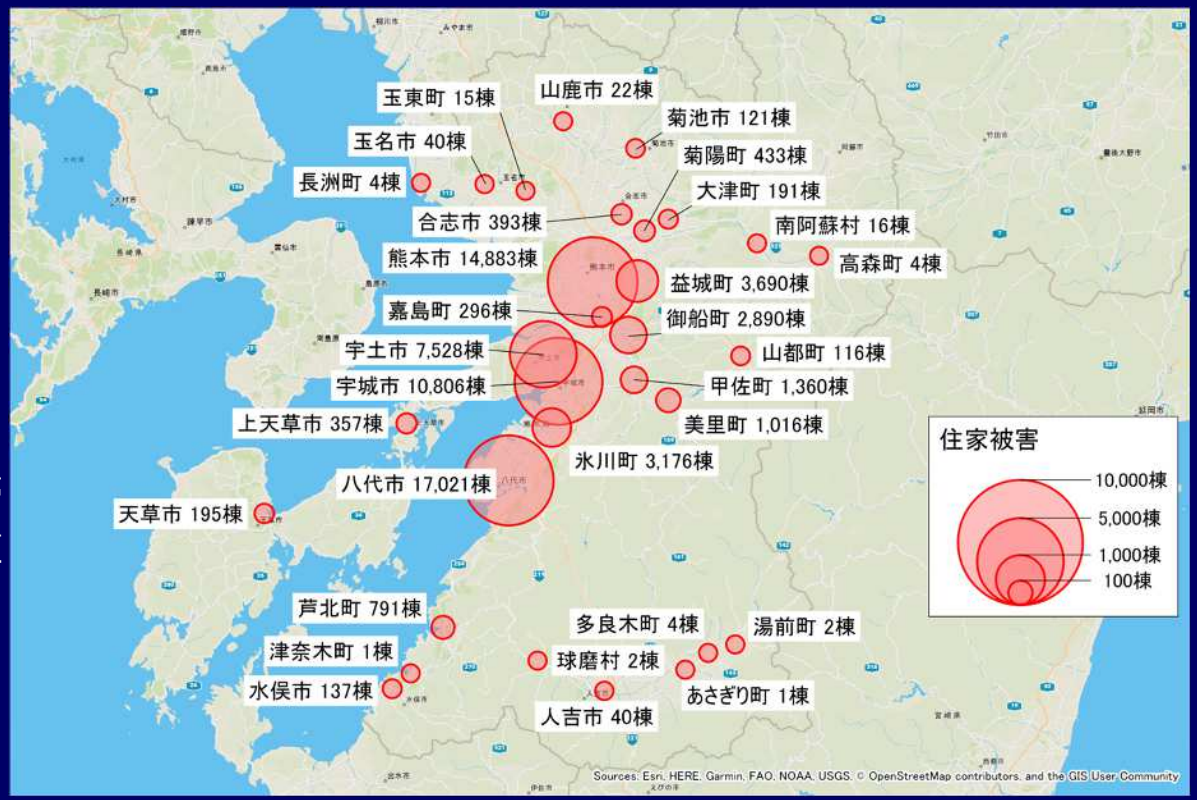


図-3　住家被害の市町村別分布（9月7日現在）

熊本県公表データより作成

被害調査

- 地震の被害調査は発災翌日から開始され、九州支社による精力的な現地調査により、発災直後の貴重な情報・写真が得られた。
- 判明した被害規模の大きさから、本社においても現地調査を行い、その情報を広く伝達することが社会的にも重要と考え、調査の実施が決定された。
- 熊本地震関連の諸業務に従事された方は下記のとおりであり、ここにお礼を申し上げる。

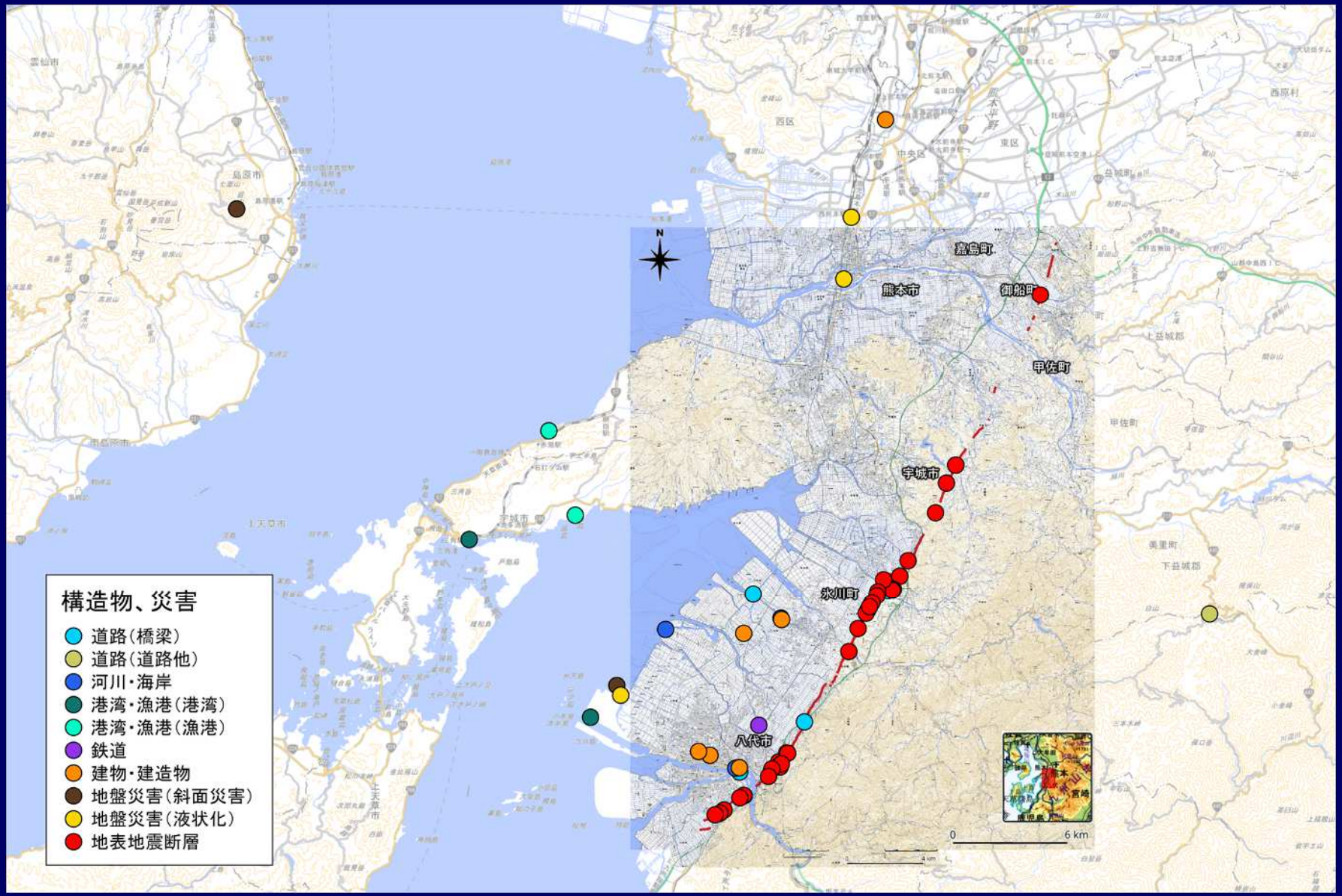
本社

現地調査 (8月5日～7日)	米岡　威（リーダー） 小徳　基 和田　昌大 平塚　智幸
支援スタッフ	森本　嚴 佐藤　由子

九州支社

田中　淳（支社長）	山下　隆之	合原　武志
茶屋　義英	遠藤　正悟	栗野　龍仁
高本　博昭	山口　剛史	千田　紅葉
東風平　宏	並木　哲也	吉國　翔馬
夏目　隆弘	佐藤　静流	岩野　靖
熊岡　康之進	武石　将和	
村中　幸治	伊東　良章	
中川　智博	柴田　雅也	
浅田　浩章	佐藤　雅也	
笠井　真吾	中村　由布奈	
田中　慎吾	松園　直人	
徳留　康憲	牟田原健太朗	

調査地点



図中の赤線は、国土地理院により、地震前後の空中写真画像と数値表層モデルから判読された地盤変位の境界線（地表地震断層）を示す。

橋梁　高架橋の段差・桁ずれ　南九州自動車道 妙見第一橋

①

②

④

上り線の桁ずれ及び段差
(下記文献*より引用)

③

- E3A南九州自動車道の八代インター南の妙見第一橋において、下り線で高架橋部の桁ずれ（写真①、②）、上り線で高架橋部の桁ずれと路面の段差（約1.5m）が生じた（写真③、④）。

＊ 西日本高速道路（株）：令和8年熊本地震によるE3九州自動車道 川田橋ほか２橋の損傷について（令和8年7月31日8時10分）
令和8 年熊本地震による通行止め・災害状況等について(第４報)（令和8年7月29日11時00分）

橋梁　橋梁の段差・開口　九州自動車道 川田橋

①

下記文献*より引用

②

③

- 川田橋は九州自動車道の宇城氷川SIC～八代IC間にある橋梁で、橋梁部ジョイントの損傷、桁ずれ、路面の段差（約1m）、開き（約0.5m）が生じた（写真①、写真②）。
- 橋梁脇の道路には路面に地割れが生じていた(写真③）。

＊1 西日本高速道路（株）：令和8年熊本地震によるE3九州自動車道 川田橋ほか２橋の損傷について（令和8年7月31日8時10分）

橋梁　橋梁の桁ずれ・段差・開口　九州自動車道 片野川橋

①

下記文献*より引用

②

③

- 片野川橋は南九州自動車道の妙見第一橋とほぼ同じ位置にある九州自動車道の橋梁である。
- 橋梁部の桁ずれ、路面の段差（約0.5m）、開き（約0.5m）が生じた（写真①*、写真②）。
- 橋梁を横断する開水路も被害を受けているところから、地震断層の影響によると考えられる（写真③）。

＊ 西日本高速道路（株）：令和8年熊本地震によるE3九州自動車道 川田橋ほか２橋の損傷について（令和8年7月31日8時10分）

橋梁　橋梁の段差・橋脚損傷

国道219号 新萩原橋 八代市萩原町

①

②

③

- 国道219号の新萩原橋は、八代市を流れる一級河川球磨川に架かる全長653.6m、幅員11mの橋梁であり、1974年に竣工した。
- 地震で、右岸の橋台と橋桁の間に段差が確認され、通行止めとなった（写真①、②、③）。
- 橋脚基部に損傷があったとの情報*がある。

＊ 国土交通省：令和８年熊本地震による八代市付近の被災状況（8月20日6時00分時点）

橋梁　橋脚の傾斜・沈下（1）　県道338号 横江大橋 八代市鏡町

横江大橋の被害位置

国土地理院ウェブサイトによる

① P_2橋脚の傾斜・沈下（2026年熊本地震）

② P_3橋脚の沈下（2016年熊本地震）

- 県道338号線の横江大橋は橋長200m、幅員8m単純合成桁2連＋単純トラス桁2連の橋梁で1979年に竣工している。
- 今回の地震では南西側のトラス桁と単純桁接合部の橋脚（P_2）が約1m沈下・傾斜し（写真①）、通行不能となった（8月17日解除）。
- 2016年熊本地震でも別な（P_3）橋脚が2～3m沈下*し、通行不能となった（写真②）。

＊熊本県土木部：熊本地震での経験を踏まえた橋梁災害復旧のまとめ （災害査定編）、2018.

橋梁　橋脚の傾斜・沈下 (2)　県道338号 横江大橋 八代市鏡町

③

④

⑤

- 橋脚の沈下に伴って、単純合成橋側の橋桁が沈下し路面に数cmの段差が生じた（写真③、④）。
- 2016年熊本地震で被災したP_3橋脚は、大口径杭による門型ラーメン形式(図-1)の基礎で復旧されたため、今回の地震では被害は見られないようである（写真⑤）。

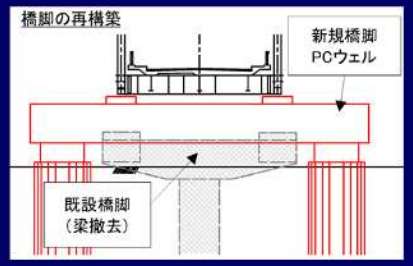


図-1　H26年熊本地震の
P3橋脚の復旧模式図
*

＊熊本県土木部：熊本地震での経験を踏まえた橋梁災害復旧のまとめ （災害査定編）、2018.

橋梁　橋台部の開口・沈下（1）　苅萱橋 宇城市小川町小川

①

②

- 刈萱橋は宇城市と氷川町の境界を流れる砂川に架かる2径間の橋梁で、左岸側で橋桁と橋台が約70cm開口し（写真①、②）、右岸側では橋台裏がやや沈下していた。
- 欄干が中央部でやや下部に折れ曲がっており、中央部も沈下しているように見える（写真③）。支承が破壊して橋桁が直接橋脚上に載っているようにも見える。
- 橋の周辺は道路や護岸に変状が多数見られた（写真④、⑤、⑥）。
- 図-1に示すように、同橋近傍には地表地震断層が生じたことが判明しており、これらの被害は地震断層が影響していると考えられる。

図-１　刈萱橋周辺の地盤変位境界*

国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）より抜粋・加筆

橋梁

橋台部の開口・沈下 (2)

苅萱橋 宇城市小川町小川

③

④

⑤

⑥

斜面災害

落石・路肩崩壊 (1)

国道445号、県道159号

- 八代市東部の山地を通る国道445号とそこから分岐する県道159号の被害（無被害）を示す。
- 次頁の写真①と写真②は県道159号の被害を示す。写真①は道路の落石であり、背後にも不安定な浮石がある。写真②は道路路肩の崩壊の様子である。
- 写真③は、写真①、②のやや南の国道445号の斜面対策が行われている葉桜橋付近の状況で、新たな落石は認められない。
- 写真④は同じく国道445号のやや南の地点の被害状況で、岩石崩壊が発生し、通行止めとなっている（7月29日時点）。

図-1　被害・無被害地点位置図*

＊国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）活断層図（都市圏活断層図）より抜粋・加筆

斜面災害

落石・路肩崩壊 (2)

国道445号、県道159号

①

②

③

④

河川　河川護岸の亀裂　八代市鏡町鏡川左岸

①

②

調査位置図*

- 鏡川左岸(注)パラペット護岸の亀裂
  写真手前(上流側)護岸が川側にせり出すように破断した（写真①、 ②)。

*国土地理院:地理院地図(標準地図)より抜粋・加筆

河川

河川堤防の亀裂・損傷（1）

前川右岸6k200付近

①

②

調査位置図*

- 前川は球磨川から分流して八代海に注ぐ河川である。
- 被害箇所は球磨川との合流点付近（6k200～6k450）であり、堤防の亀裂、高水敷の舗装の亀裂・陥没などである（写真①～④）。

＊国土地理院：地理院地図(標準地図)より抜粋・加筆

河川 河川堤防の亀裂・損傷（2） 前川右岸6k200付近

③

④

図-2　被害地点周辺の微地形*

- 図-2に被害地点周辺の微地形分布を示す。前川右岸地域は広く人工改変されており、それ以前の微地形は不明である。
- しかし、周辺部には、海岸平野・三角州、自然堤防、旧河道等の微地形が分布することから、被害地点付近にも河川の作用による比較的軟質な地盤が分布している可能性がある。

＊国土地理院：土地条件図から抜粋・加筆

海岸　干拓堤防被害（1）　八代干拓 昭和海岸

- 今回の地震により干拓地の海岸堤防では、堤防の亀裂、沈下等の被害が多数発生した。昭和海岸でも、パラペットの傾動(写真①)、堤防天端の沈下(写真②)、樋門接続部の亀裂・段差（写真③）、堤防背後地盤の亀裂・陥没・噴砂（写真④）が生じた。

① パラペットの傾動

② 堤防天端の沈下

調査位置図*

③ 樋門接続部の亀裂･段差

④ 排水機場内の噴砂

＊「国土地理院：地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆

海岸　干拓堤防被害（2）　八代干拓 文政海岸

- 八代干拓地の文政海岸（全景写真①）では、海岸堤防裏法面のはらみ出し、法尻の沈下・噴砂及び背後地盤の亀裂・段差・陥没・噴砂が複数箇所で確認された（写真②～④）。

① 調査箇所の堤防全景
（位置図①から南西方向を撮影）

② 法面はらみ出し･噴砂

調査位置図*

③ 法面はらみ出し･法尻沈下

④ 法面のはらみ出し

＊「国土地理院：地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆

港湾　岸壁・背後地の被害(1)　八代外港

- 八代外港西端の「-9m岸壁」で岸壁背後地盤の変状（亀裂・段差・陥没：写真①～②、噴砂：写真③）を確認した。

①

調査位置図*

②

③

「国土地理院：地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆

港湾　岸壁・背後地の被害(2)　八代外港

- 護岸の一部が傾動し、開口亀裂が発生した（写真①）。
- 護岸の背後に、亀裂、段差、陥没が発生した（写真②，③）。

①

②

③

調査位置図*

＊「国土地理院：地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆

港湾　岸壁・背後地の被害（3）　八代外港 くまモンポート

- くまモンポートのクルーズ船専用岸壁（一部耐震強化岸壁）では、鋼製ジャケット接続部の段差(写真③,④)、岸壁背後の亀裂・段差・噴砂(写真②)が生じた。

① 全景

② 岸壁背後の亀裂・段差・噴砂

③,④ 鋼製ジャケット接続部の段差（砂利で応急復旧済）

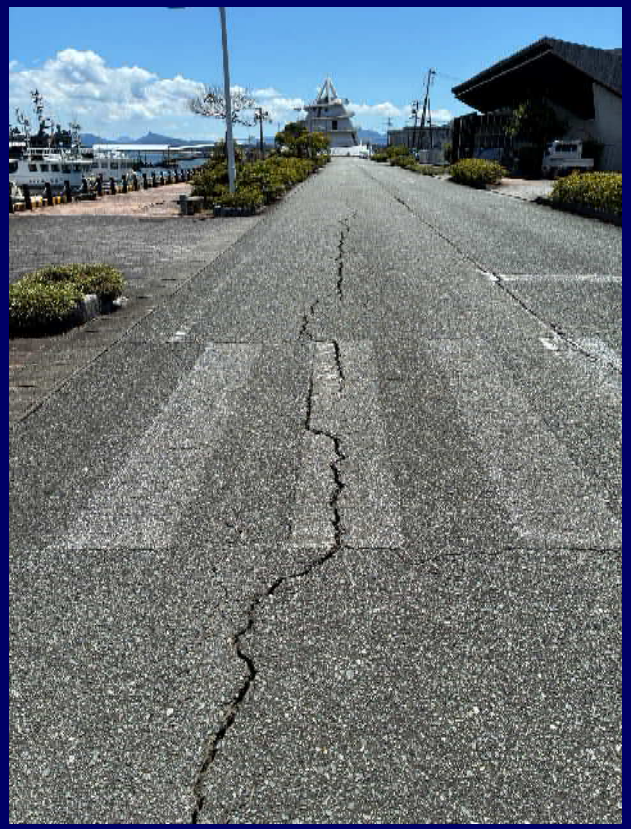
港湾　岸壁背後の亀裂・沈下　三角東港

- 宇城市三角町三角浦の三角東港では、護岸の背後や臨海道路に亀裂等の軽微な変状が発生した（写真①、②）。

調査位置図*

①

②



＊「国土地理院：地理院地図」より抜粋・加筆

漁港　岸壁背後の沈下

赤瀬漁港・郡浦漁港

- 宇土市赤瀬町の赤瀬漁港（赤瀬新港）では、浮桟橋接続部の損傷や物揚場の開口亀裂が発生した（写真①）。
- 宇城市三角町郡浦の郡浦漁港でも同様に、物揚場が傾倒し、開口亀裂が発生した（写真②）。

①-1　赤瀬漁港

①-2　赤瀬漁港

②-1　郡浦漁港

②-2　郡浦漁港

調査位置図*

＊「国土地理院：地理院地図」より抜粋・加筆

鉄道　軌道盛土法尻部の液状化（1）八代市島田町

① 盛土法尻側道の隆起、噴砂

② 盛土法尻側溝の隆起損傷、噴砂

- JR新八代駅北側の留置線（引き上げ線）の盛土法尻部に沿って広範囲で液状化が発生した。
- 盛土に接する側道路面が隆起し、法尻の側溝が大量の噴砂とともに隆起・損傷し（写真①,②）のほか高架支承部の損傷（写真③）、用水路と田圃底面からの噴砂や隆起も生じていた（次頁写真④⑤⑥）。

調査位置図*

＊ 国土地理院：地理院地図（標準地図）より抜粋・加筆

鉄道

軌道盛土法尻部の液状化（2） 八代市島田町

③ 高架支承部の損傷

④ 側道を横断する埋設管の隆起と周辺沈下

⑤ 田圃底面からの噴砂

⑥ 用水路の隆起による損壊

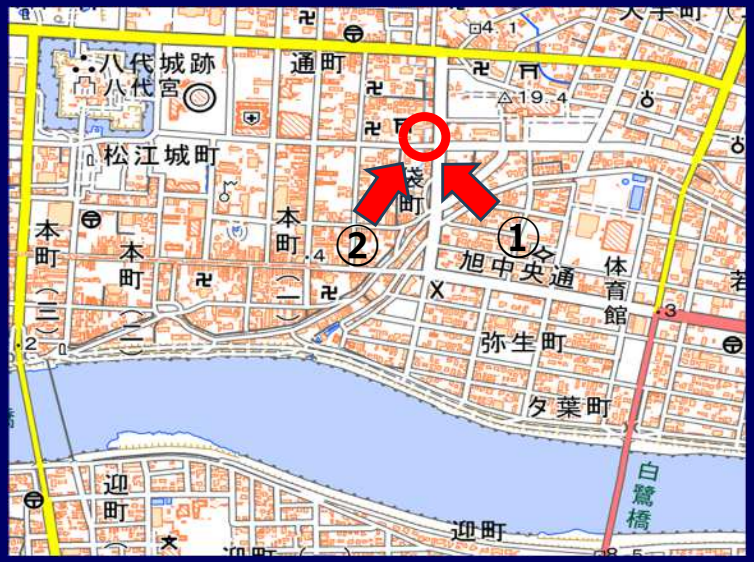
建物･建造物

ビルの倒壊（1）

八代市通町

①

②



調査位置図＊

- 八代市の市街地中央部に位置する交差点の角に建つ三階建てビル１階部分が圧壊し、上部がそのまま落下した。全体が道路側に傾斜している（写真①）。
- 落下したビルの東面と西面に押し潰された幅広いシャッターの残骸、西面で見られる柱の形状などから、１階部の柱の座屈によるものと推定される（写真②）。

＊ 国土地理院：地理院地図（標準地図）より抜粋・加筆

建物･建造物

ビルの倒壊（2）八代市通町

- 当該地区一帯では、当ビルのみが倒壊し、周辺には被害が見られないことから、被害地点を治水地形分類図にプロットしてみた（図-１）。
- 同図によれば、当ビル東面に接する道路は八代城の掘を埋め立てた造成地と考えられ、当ビルは掘の法肩部に位置する。
- これら地盤条件の不連続性により増幅された地震動が当ビルの被害に影響した可能性も考えられる。

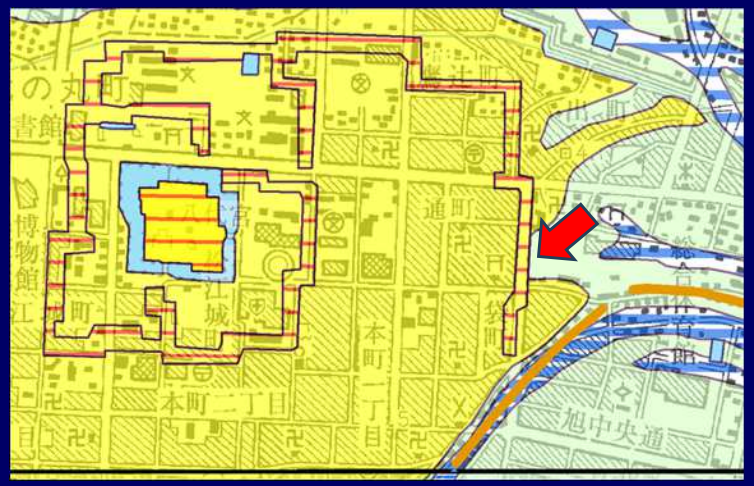


図-1　八代城跡東側の治水地形分類図*

凡例

大分類	中分類	小分類	細分類	記号
人工改変地形		干拓地		
		盛土地･埋立地		
		切土地		
		連続盛土		

＊ 国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）より抜粋・加筆

建物･建造物

家屋の傾斜、石塀の亀裂 八代市鏡町

①

②

調査位置図*

- 電柱と比較して家屋が左側に傾斜している（写真①）。
- 鏡川左岸側腹付け部の境界に生じた石塀の亀裂（写真②）。

＊ 国土地理院：地理院地図（標準地図）より抜粋・加筆

建物･建造物

家屋の倒壊（1）

八代市萩原町

①

②

調査位置図*

- 新萩原橋が架かる球磨川右岸川堤内地では集中して家屋が倒壊している。
- 宅地は河川堤防天端に擦り付けるように造成された盛土地盤とみられる。

＊ 国土地理院：地理院地図（標準地図）より抜粋・加筆

建物･建造物

家屋の倒壊（2）

八代市萩原町

③

- 家屋が倒壊した区域に対して治水地形分類図を重ねてみた。
- いずれの地点も自然堤防の範囲に含まれている。
- ①は宅地盛土の沈下、②③は近傍側面を通過する旧河道の谷筋方向に引き込まれる形で崩壊している。

治水地形分類図*

凡例

大分類	中分類	小分類	細分類	記号
低地	山麓堆積地形			
	扇状地			
	氾濫平野			
	氾濫平野	後背湿地		
	扇状地、氾濫平野	微高地（自然堤防）		
		旧河道	旧河道（明瞭）	
			旧河道（不明瞭）	
		落堀		

＊ 国土地理院：地理院地図（治水地形分類図）より抜粋・加筆

建物･建造物

石垣の崩壊（1）八代城跡

①

②

③

調査位置図＊

- 八代城石垣の北東雁行（クランク状）部の崩壊。
  写真①から③(注)に続く。

(注) ③が最北東隅部で北東側から撮影。

＊ 国土地理院：地理院地図（標準地図）より抜粋・加筆

建物･建造物

石垣の崩壊（2）熊本城

① 加藤神社入口石垣の崩壊

② 櫨方櫓跡付近の石垣の崩壊

③ 西出丸西側石垣の崩壊

- 熊本城では今回の地震により石垣等の40箇所に被害が生じたとされている*。
- 本調査では、熊本城の西側～北側で石垣の崩壊を確認した（写真①～③）。

＊熊本市：第22回熊本市災害対策本部会議資料

建物･建造物

灯篭・石碑の倒壊（1）

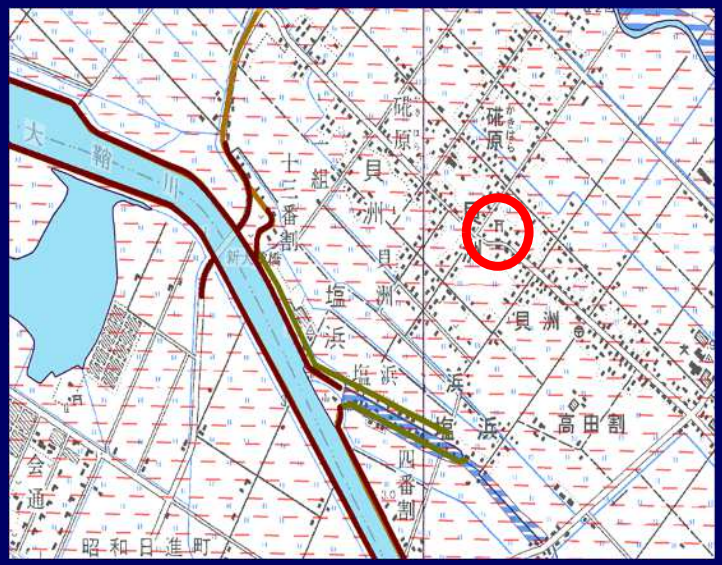
八代市鏡町貝洲 加藤神社

①

②

- 境内に奉納されている古い灯篭・石碑が倒壊した。比較的新しいものや社殿の被害は見られなかった。

③



調査位置図*

＊ 国土地理院：地理院地図（治水地形分類図）より抜粋・加筆

建物･建造物

灯篭・石碑の倒壊（2）

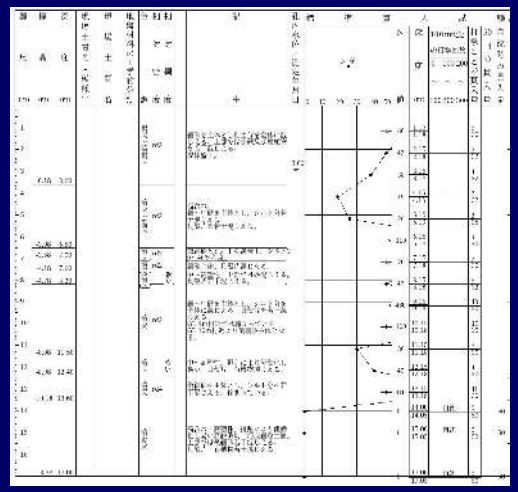
八代市鏡町貝洲 加藤神社

- 当該地一帯は古くは1805年（文化3年）より永い年月に亘って構築され続けてきた広大な干拓地である。神社近傍周囲の柱状図A～Cを示す。
- 神社のある市街地は比較的硬質(柱状図A)であり、周囲を軟弱地盤(柱状図B,C)である田畑が囲む不均一な地盤である。
- 気象庁の震度分布（P.7）では一様に震度6強であった。一方、現地を見た限りでは市街地とその周囲では被害状況に差異が見られ、局部的に揺れが異なっている印象である。

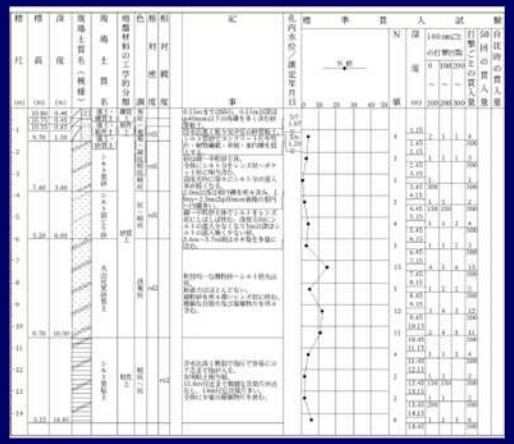
貝洲加藤神社と柱状図A～Cの位置図

「国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）」より抜粋・加筆

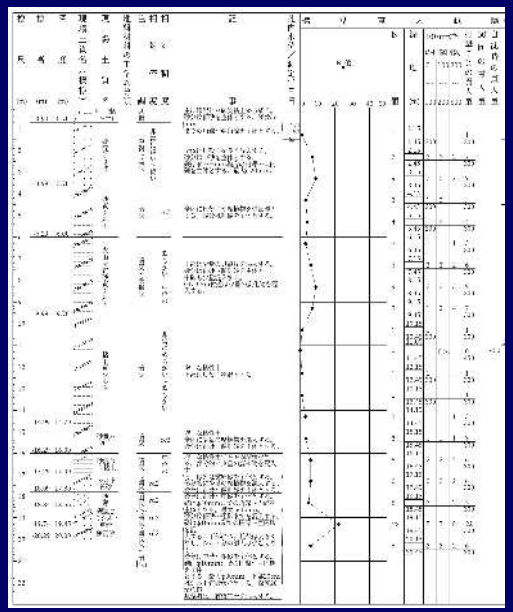
A



B



C



被害地点周辺の地盤柱状図*

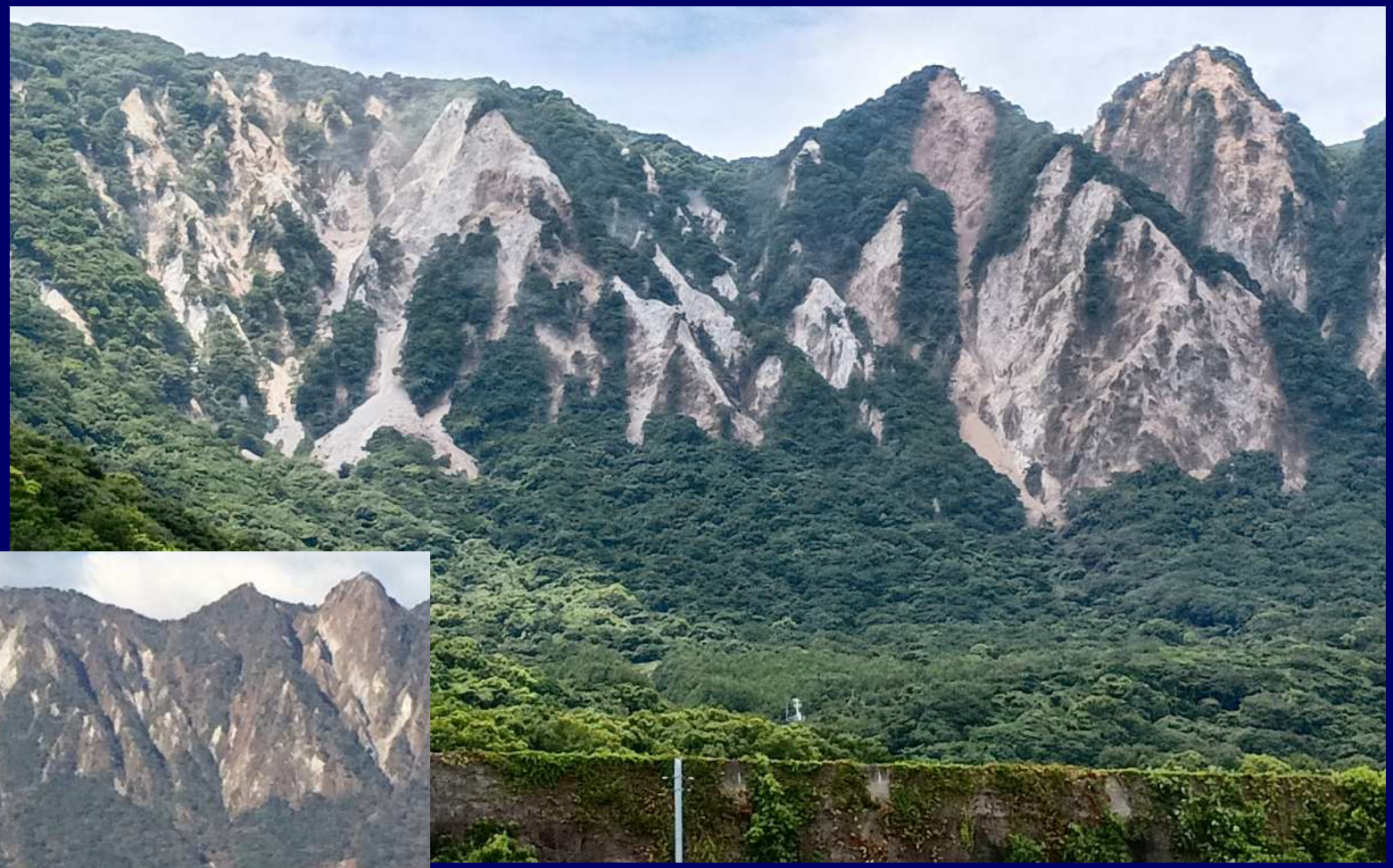
＊国土交通省：国土地盤情報検索サイトKuniJibanより抜粋

斜面災害

山腹斜面の表層崩壊

長崎県島原市眉山

- 長崎県島原市の眉山において、表層崩壊（表層剥離）が発生した。



2026年7月30日撮影

2018年撮影

斜面災害　斜面崩壊　八代市大島町 大島公園内

- 八代市大島町大島公園内の露岩の一部が崩落した（写真①）。

調査位置図*

①

* 国土地理院：地理院地図より抜粋・加筆

液状化　道路際の噴砂　県営八代運動公園

①

②

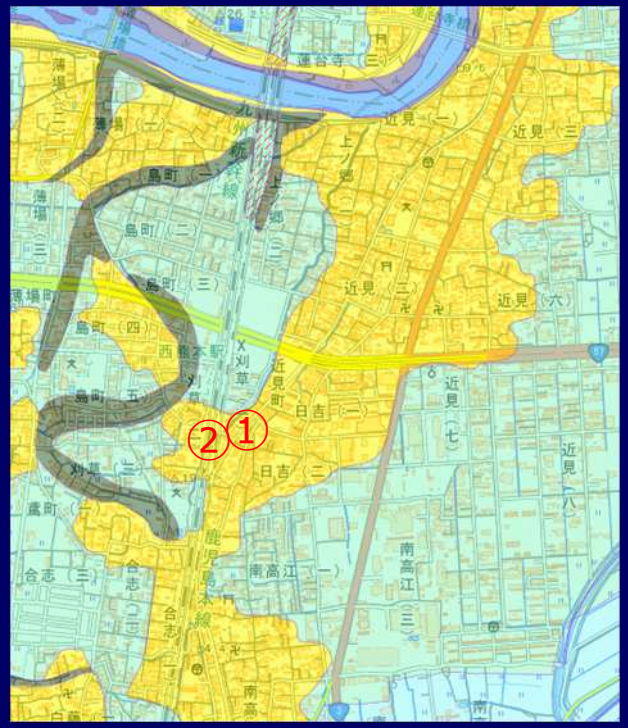
調査位置図*

- 県営八代運動公園 入口車止め支柱部の噴砂（写真①）。シルト分32.4%, 粘土分1.2%でシルト分が多く均一な細粒分質砂である。
- このほか園内の随所で噴砂跡が確認された（写真②）。

＊ 国土地理院：地理院地図（標準地図）より抜粋・加筆

液状化　液状化対策（1）熊本市南区辺見町付近

- 2016年熊本地震で、当地付近は広範囲に液状化による被害を受けた。自然堤防や旧河道などで、噴砂（写真①）、地盤の不等沈下、建物の沈下（写真②）などが生じている。



	低地の微高地	河川沿いの微高地	現在及び過去の河川沿いにあって、河川の洪水によって形成された微高地。
		砂州・砂堆・砂丘	砂州・砂堆は、現在及び過去の海岸、湖岸沿いにあって、波浪や沿岸流によって形成された、砂または礫からなる微高地。 砂丘は、現在及び過去の海岸、湖岸、河川沿いにあって、風によって運ばれた砂からなる小高い丘。
		天井川沿いの微高地	現在及び過去の河床が低地の一般面より高い河川に沿って形成された微高地。

図-1　熊本市南区近見町周辺の微地形*

① 噴砂（2016熊本地震時撮影）

② 建物の沈下（2016熊本地震時撮影）

＊ 国土地理院：地理院地図（土地条件図）より抜粋・加筆

液状化　液状化対策（2）熊本市南区辺見町付近

- 熊本市は実証実験を皮切りに対象区域を工区毎に遮水壁で囲い集水管とポンプによる段階的に地下水位を低下させる「地下水位低下工法」による液状化対策を実施している。

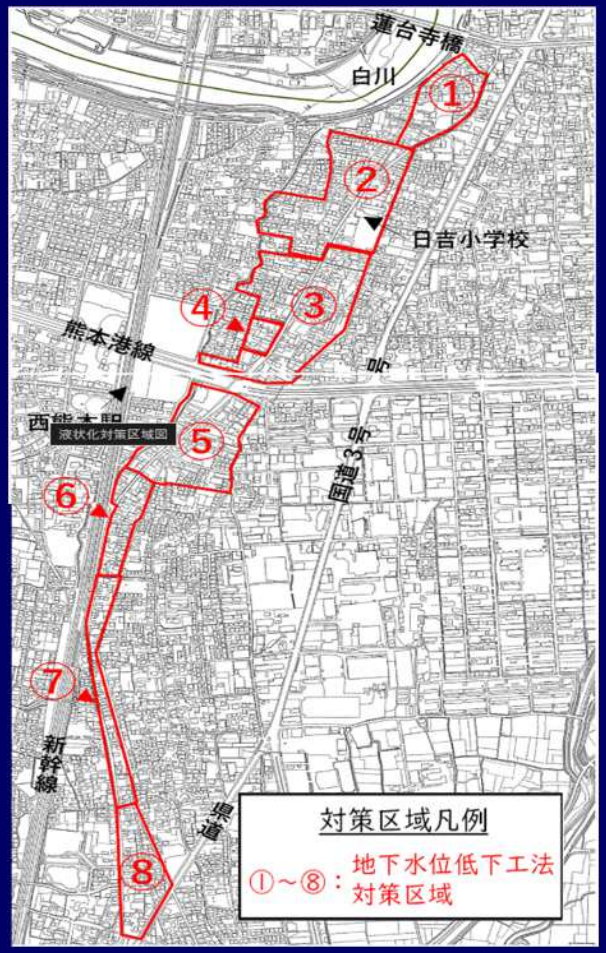


図-1 対策範囲*

マンホールポンプ

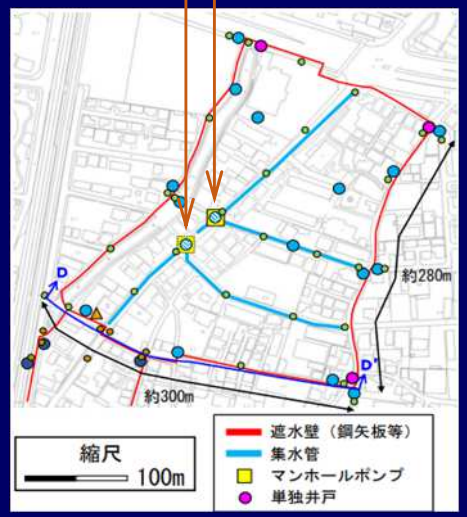


図-2　⑤地区観測機器配置図とマンホールポンプ*

＊熊本市：第16回熊本市液状化対策技術検討委員会 説明資料【近見地区】他

液状化

液状化対策（3）熊本市南区辺見町付近

- 液状化対策工施工区域（⑤地区）では変状は見られなかった（★印）。
- 対策範囲外では若干の噴砂や沈下、構造物基礎の変状が見られた（★印）。

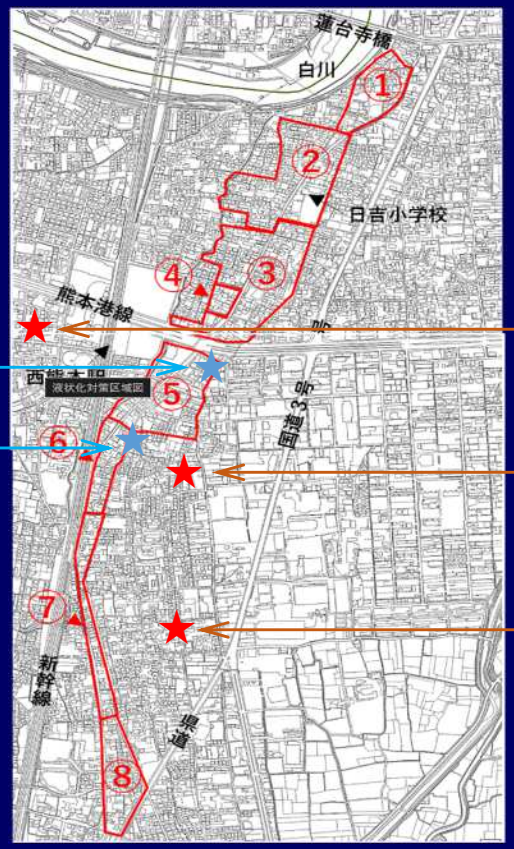


図-1　液状化対策範囲外での変状(右写真)と範囲内の状況(左写真)

液状化　市街地(自然堤防)の噴砂　熊本市南区富合町杉島

①

②

図-1　調査地周辺の地形分類図*

- 道路の側溝や電柱付近に噴砂跡を確認した(写真①)。やや粗粒で細礫を混入する(写真②)。自然堤防の縁辺部に位置する(図-1)。

＊国土地理院： 地理院地図（地形分類（自然地形））より抜粋・加筆

地表地震断層

地表に現れた地震断層の分布

- 国土地理院*では、地震前後の空中写真画像と数値表層モデルから変位を判読し、八代市から御船町にかけての約35kmの区間で変位が不連続になる境界の存在を明らかにしている。
- 変位の不連続境界は日奈久断層にほぼ対応していることから、断層の活動によって地表に現れた変位境界（以後、地表地震断層と呼ぶ）と考えられる。
- 地表地震断層の最大のずれ量は、水平方向で右横ずれ約2.1 m、上下方向で北西落ち約1.3 mを示す。
- 地表地震断層によって、種々の構造物が被害を受けた。以下に具体的な被害事例について紹介する。

図-1　変位境界の分布*

＊国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）

地表地震断層

既往地震断層近傍の亀裂・変状

御船町大字小坂

①

②

③

図-1　調査位置図 *

- 2016年熊本地震時の地表地震断層(日奈久断層)の近傍道路で亀裂を確認した(図-1)。
- 亀裂は、2016年の断層を挟んでほぼ対称的な左右2箇所で認められた(写真①,③と写真②)。

＊ 国土地理院：地理院地図（活断層図）より抜粋・加筆

地表地震断層

道路の亀裂・橋梁被害（1）

宇城市豊野町山崎

- 宇城市豊野町の西側山際に日奈久断層が通っている（図-1）。同図中の①～④の4地点で路面の変状が見られた。これらの地点はいずれも日奈久断層上にある。
- 断層箇所で国道218号の側道を横断する段差・亀裂が発生した（地点①）。
- 地点②の国道218号に架かる新山崎橋の西側では、橋の手前100m程の所で右横ずれの道路の変状が見られた。また、橋の手前10mの地点ではマンホールの突出も見られた。
- また、地点②では、新山崎橋の支承が破壊されて橋桁が沈下するとともに、南側に併設された歩道橋との間が開いた。
- 地点③では、国道218号道路において路面の亀裂や陥没、ブロック積擁壁の亀裂等が確認された 。
- 地点④では、県道32号（小川嘉島線）を横断して段差・亀裂が発生した。

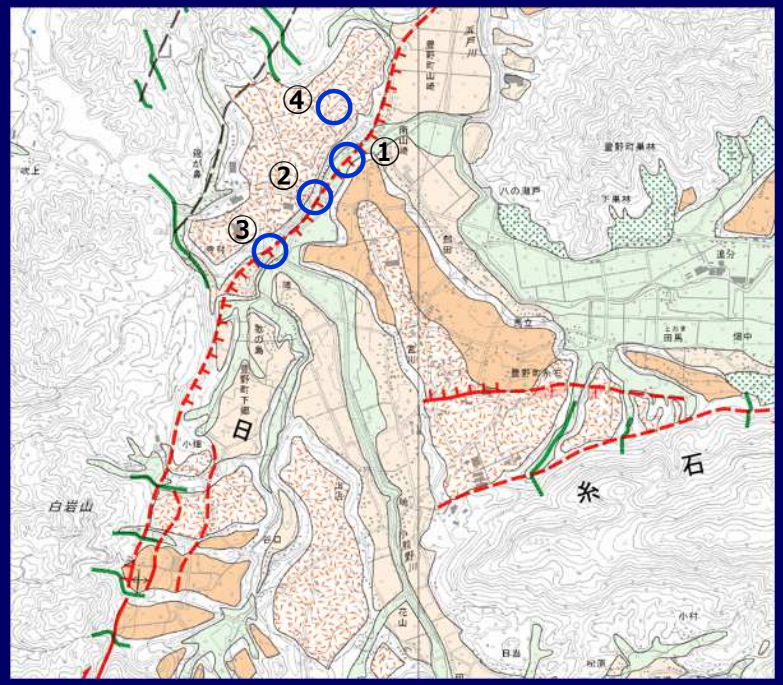


図-1　調査位置と日奈久断層の分布（宇城市豊野町）＊

＊国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）活断層図（都市圏活断層図）より抜粋・加筆

地表地震断層

道路の亀裂・橋梁被害（2）

宇城城市豊野町山崎

①-1

①-3

①-2

- ①地点の国道218号道路の側道部では亀裂が確認された（写真①-1）。
- 国道218号ではブロック積擁壁の崩壊が認められた（写真①-2）。
- ④地点の県道32号（小川嘉島線）では、道路の横断方向に段差・亀裂が発生した（写真①-3）。

地表地震断層

道路の亀裂・橋梁被害 (3)

宇城城市豊野町山崎

②-1 新山崎橋西側の道路右横ずれ

②- 2 新山崎橋西側のマンホール突出

②-3 新山崎橋東側橋台部（手前）の段差

- 国道218号に架かる新山崎橋の西側手前100m程の所で右横ずれの道路の変状が見られた（写真②-1）。橋の西側ではマンホールの突出も見られた（写真②-2）
- 新山崎橋の両側の橋台取付部では地盤の沈下が見られ、応急工事が実施済みであった（写真②-3）。

地表地震断層

道路の亀裂・橋梁被害（4）

宇城城市豊野町山崎

②-4

②-5

②-6

- 新山崎橋の南側には歩道橋が併設されており、橋の西側で最大50cm弱の開きが発生していた（写真②-4）。写真②-5は西側の離間部を上から見たもので、車道部の橋桁が支承から外れ、橋台の受け台に直接載ったような形に見える。
- 西側橋台部は橋梁部と裏込め部の両方に砂利は入っているように見える（写真②-6）。支承からの離脱によって、橋桁がやや沈下したためと考えられる。

地表地震断層

道路・擁壁の損傷 (5)

宇城市豊野町山崎付近

②-7

②-8

②-9

- 写真②-7は東側橋台付近の補修状況と手前の縦断亀裂を示す。
- 写真②-8は西側橋台裏の歩道の沈下状況を示す。
- 写真②-9は西側橋台付近の歩道縁石の被害状況を示す。

地表地震断層

道路・擁壁の損傷 (6)

宇城市豊野町山崎付近

③-1

③-2

③-3

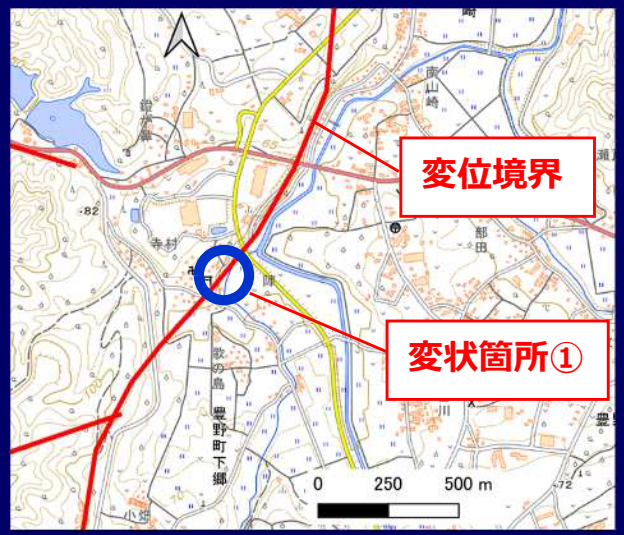
- ③地点の国道218号道路において路面の亀裂（写真③-1）や陥没（写真③-2）、ブロック積擁壁の亀裂（写真③-3）が確認された 。

地表地震断層　道路の亀裂・段差（1）宇城市豊野町下郷

①-1

①-2

- 豊野町山崎のやや南の下郷地区では、道路の延長方向に右横ずれを示す亀裂、段差が発生した（写真①～③）。



調査位置図*

①-3

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

道路の亀裂・段差（2）

宇城市豊野町下郷

- 宇城市豊野町の西側山際に日奈久断層が通っている（図-1）。同図中の①～③の3地点で道路の亀裂・開口が認められた。これらの地点はいずれも日奈久断層上にある。
- ①地点は、比較的開口幅が大きい単純亀裂が複数本、道路横断方向に入っているのが確認された（写真①-１～写真①-3）。
- ②地点は複雑な破壊形状を示している（写真②-1～写真②-2）。
- ③地点は基本的には横断亀裂であるが、中央部で複雑な破壊形状を示している（写真③-1～写真③-2）。
- 日奈久断層は右横ずれ断層とされているが、断層線と平行な道路の破壊形状は複雑で、今後の解明が待たれる。

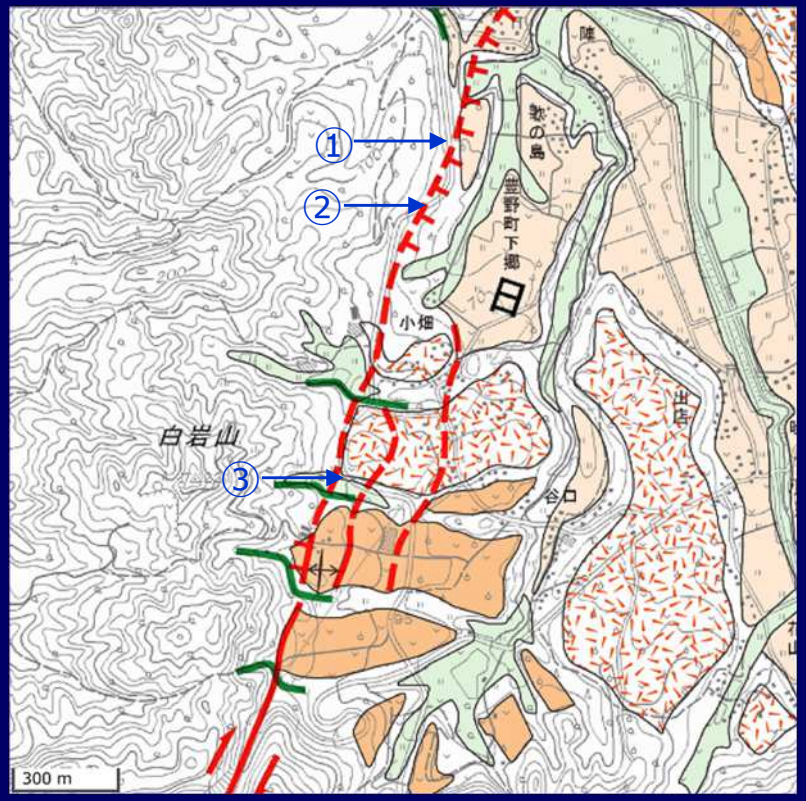


図-1　調査位置と日奈久断層の分布（宇城市豊野町）＊

＊国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）活断層図（都市圏活断層図）より抜粋・加筆

地表地震断層

道路の亀裂・段差 (3)

宇城市豊野町下郷

①-1

①-2

①-3

地表地震断層

道路の亀裂・段差 (4)

宇城市豊野町下郷

②-1

②-2

③-1

③-2

地表地震断層

道路の亀裂・法面崩壊

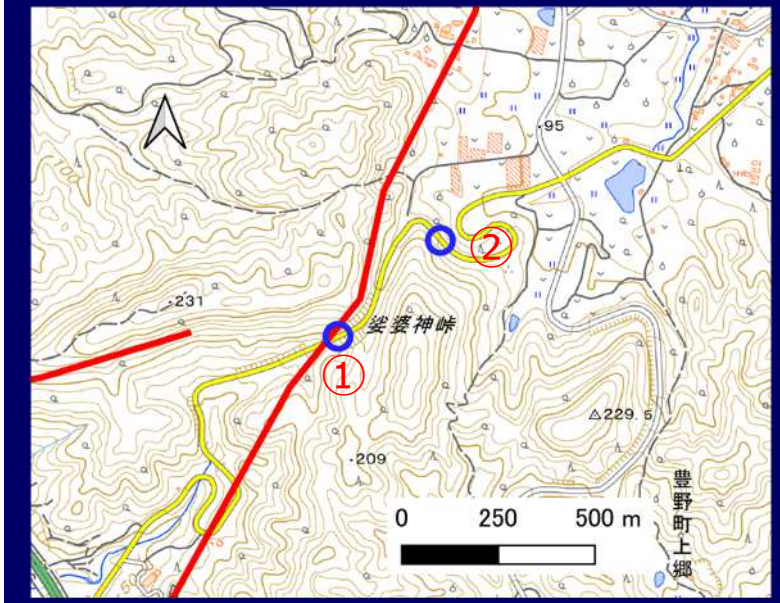
宇城市小川町北小野・豊野町下郷（娑婆神峠）

- 県道244号下郷北新田線の娑婆神峠において、道路を横断する右横ずれの亀裂が発生した（写真①-1～①-2）。
- 上記の北東の道路法面において、小規模な崩壊が発生した（写真②）。

①-1

①-2

②



調査位置図*

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

ため池堤体の変状

高倉ため池（宇城市小川町北部田）

- 地表地震断層の近傍に位置する高倉ため池では、堤体の変状及び隣接する道路の亀裂・隆起等が発生した。

＊「国土地理院 令和 8 年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

① 堤体の損傷

② 堤体の損傷

「国土地理院：地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆

③ 法尻道路舗装面の隆起

④ 道路側溝の隆起

地表地震断層　水道管・道路の損壊　宇城市小川町南部田

①

②

図-1　調査位置と日奈久断層＊

- 宇城市小川町南部田の日奈久断層帯上(図-1)の道路部において断層変位に伴い、亀裂や陥没などの路面変状が生じた（写真①）。
- 路面変状が大きい箇所では、埋設上水管の断裂が生じた（写真②）。

＊国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）活断層図（都市圏活断層図）より抜粋・加筆

地表地震断層

道路の段差・亀裂・陥没

宇城市小川町　県道184号

①

②

- 延福寺から北東へ伸びる県道184号の約100m間は日奈久断層上に位置し(図-1)、亀裂（約0.2m）や段差（約0.3m）が発生した（写真①）。また歩道部との境界に亀裂や陥没が生じた（写真②）。

図-1　調査位置と日奈久断層*

＊国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）活断層図（都市圏活断層図）より抜粋・加筆

地表地震断層

地盤の亀裂・家屋の沈下

宇城市小川町 延福寺周辺

①

②

図-1　調査位置と日奈久断層*

- 延福寺周辺は日奈久断層のステップ部に位置しており(図-1)、断層変位に伴い、地盤変状や構造物の被害が集中した（写真①）。
- 戸建住宅では不等沈下が生じた（写真②）。

＊ 国土地理院：地理院地図（電子国土WEB）活断層図（都市圏活断層図）より抜粋・加筆

地表地震断層

道路の横断亀裂

氷川町宮原 国道443号

①

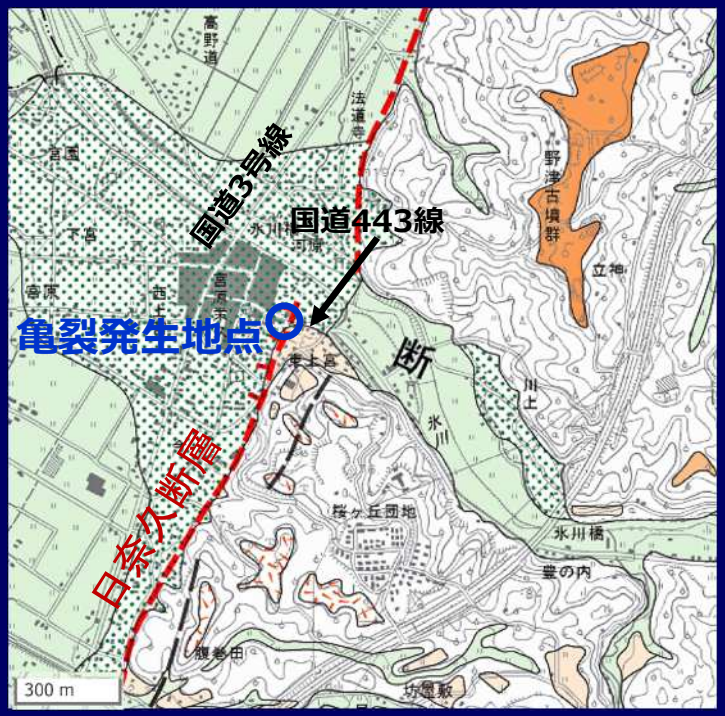


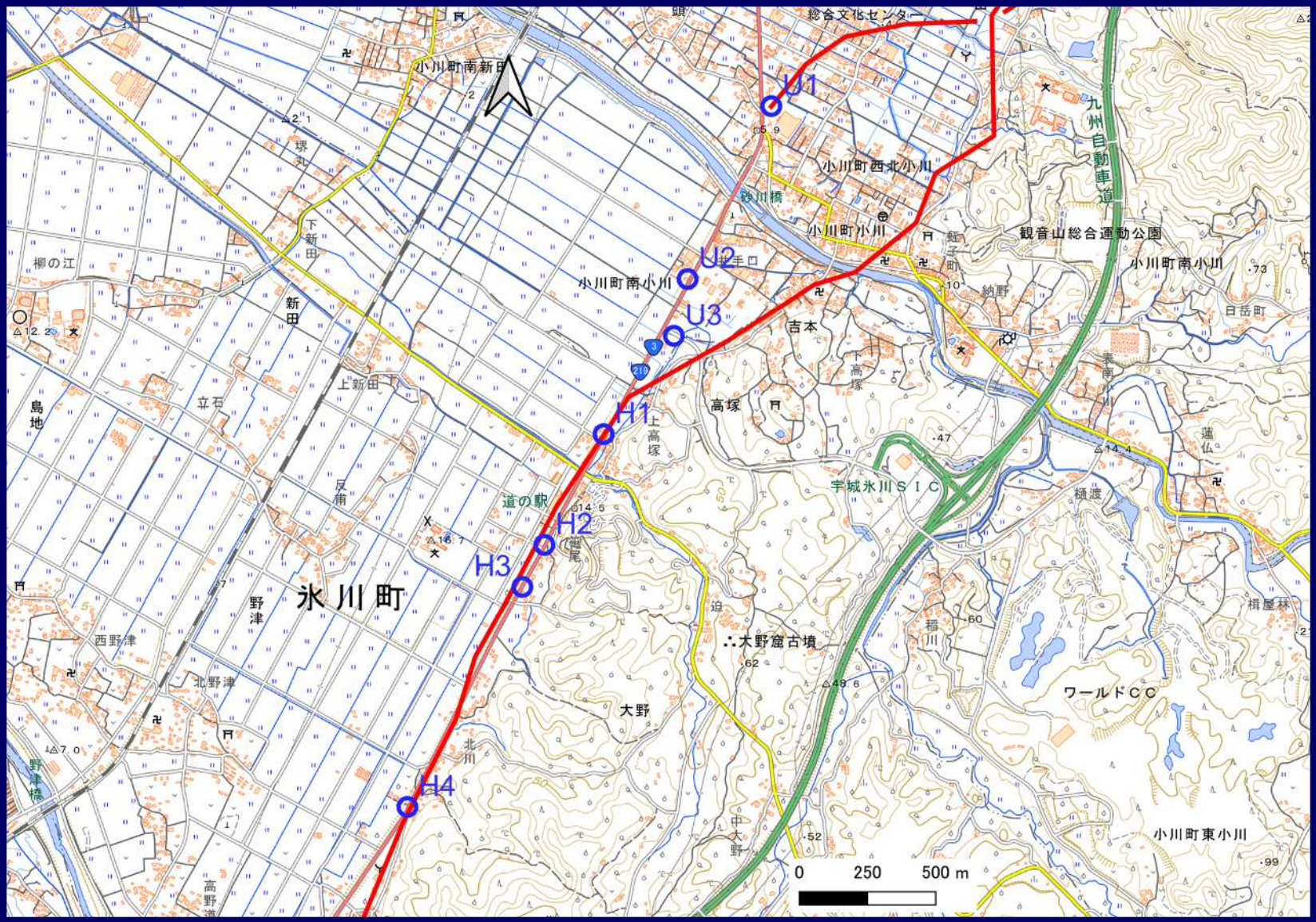
図-1　亀裂発生地点と日奈久断層*

- 氷川の約200m程度南側の国道3号線から分岐する国道443号線に道路を横断する亀裂が現れた（写真①）。
- 亀裂は南北方向に走っており、その位置は図-１に示す日奈久断層（赤破線）とほぼ一致している。

＊国土地理院：土地条件図から抜粋・加筆

地表地震断層

宇城市～氷川町 (U1～U3,H1～H4)

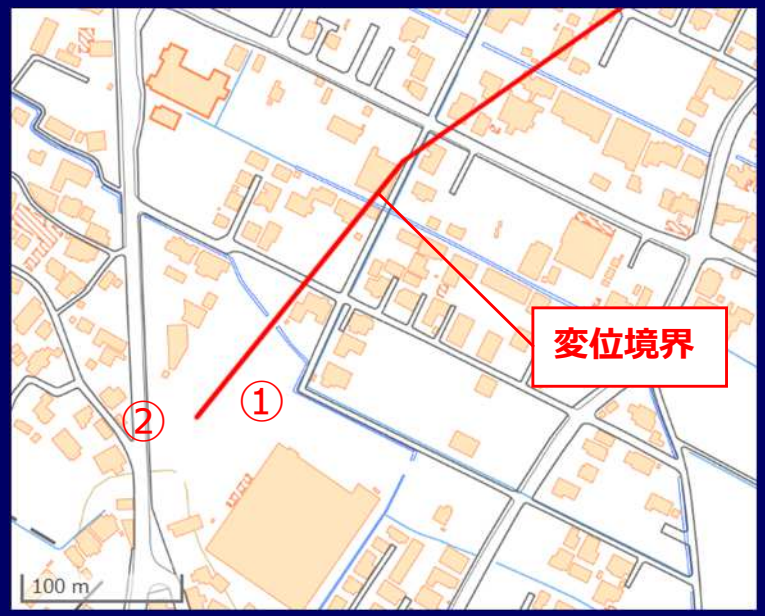


調査位置図*

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層　駐車場・道路の亀裂 (U1)　宇城市小川町西北小川

- スーパーマーケット駐車場のアスファルト舗装面（写真①）、道路縁石（写真②、国道3号線）に変状が発生した。



調査位置図*

①

②

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

道路・駐車場の亀裂（U2）

宇城市小川町南小川

- 国道3号線(写真①）、駐車場アスファルト舗装面（写真②）に変状が発生した。

国土地理院による変位境界からは、やや離れている。

調査位置図*

①

②

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

道路の横断亀裂 (U3) 宇城市小川町南小川

- 道路を横断して亀裂・段差が発生した（写真①）。

①

調査位置図*

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

道路際の 縦断亀裂（H1） 氷川町高塚

- ガソリンスタンドと国道3号線の境界付近に沿って亀裂、段差が発生した（写真①）。
- ガソリンスタンド敷地境界のコンクリート壁において、亀裂の北西側が傾動していた（写真②）。

①

②

調査位置図*

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

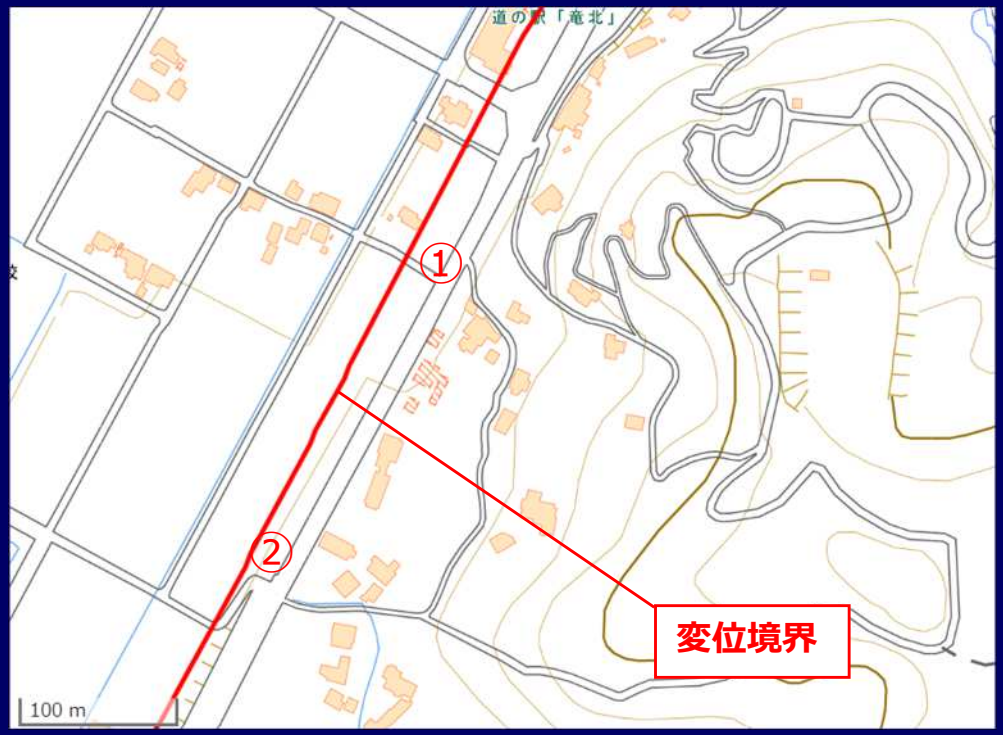
歩道の変状（H2,H3）

氷川町大野 国道3号線

- 国道3号線の歩道に沿って変状が発生した（写真①、②）。

① H2地点

② H3地点



調査位置図*

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層　路面・フェンスの変形（H4）氷川町大野

- 国道3号線に沿って道路舗装アスファルトの損壊（写真①）、道路フェンスの変形等の変状（写真②）が発生した。

調査位置図*

①

②

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

道の駅 竜北付近 (1)

- この地域では、図-1の①～④に示す地点で日奈久断層の活動の影響とみられる道路・駐車場の変状が発生した。
- 地点①では、国道３号の東側の竜北公園にある2段式の駐車場の柱が上下で座屈し、折れ曲がるようにして落下した（写真①-1～①-2）。また国道3号を横断する歩道橋の階段部分に開口が生じた（写真①-3）。

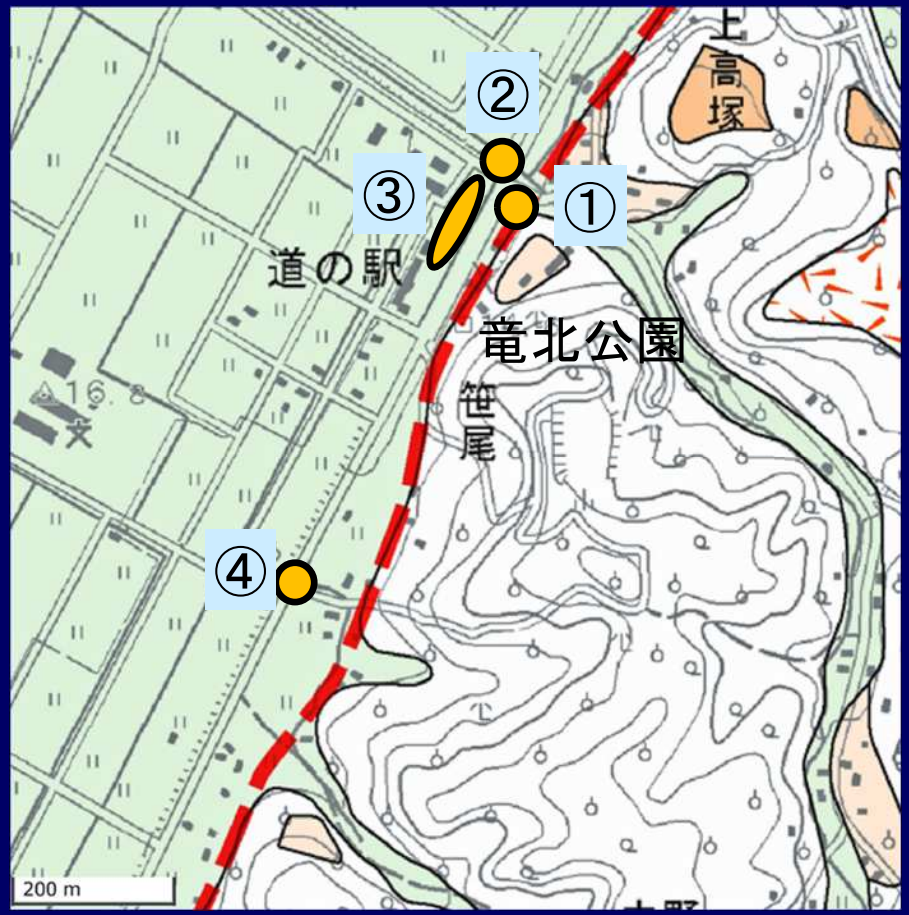


図-1　道の駅 竜北付近の日奈久断層と被害地点*

- 地点②では、大野交差点西側の県道256号の横断方向に亀裂が見られ、道路の北側にある水路の護岸も壊れた（写真②-1～②-3）。
- 地点③は、道の駅の駐車場において国道３号に並行に走る大規模な亀裂が生じた。北側の延長は地点②に続いている（写真③-1～③-3）。
- 地点④は、道の駅から約400m南側の歩道橋付近のセンターラインに現れた段差である（写真④-1～④-2）。

＊国土地理院活断層図より引用・加筆

地表地震断層

2段式駐車場の倒壊

道の駅 竜北付近

①-1

①-2

- 竜北公園（氷川町大野）は国道3号線東側の丘陵に位置する。竜北公園と道の駅竜北を連絡する歩道橋が国道3号線上に架かっている（写真①-1）。
- 竜北公園側には柱で支持された2段式の駐車場が設置されており、この駐車場の柱脚が上下で座屈し、上部の駐車場デッキが折れ曲がるようにして落下した（写真①-2）。
- また、歩道橋の階段部分が開口した（写真①-3）。

①-3

地表地震断層

道路の横断亀裂

道の駅 竜北付近 県道256号線

②-1

②-2

②- 3

- 道の駅の北側の県道256号線と国道3号線が交差する大野交差点西側で道路を横断する亀裂が生じた（写真②-1）。
- 県道256号線北側の水路の護岸も大きく折れ曲がっていた（写真②-2）。
- 亀裂は県道の南側に伸び、後述する道の駅の駐車場の亀裂につながっているようである（写真②- 3）。

地表地震断層

駐車場路面の亀裂

道の駅 竜北

- 「道の駅 竜北」の駐車場では、国道3号線に並行して大きな亀裂が走っていた（写真③-1～写真③-3）。
- 駐車場と県道256号線の亀裂・水路護岸の破壊箇所（前述写真②-1～写真②-3）は南北にほぼ連続しており、日奈久断層の活動によって生じたものと考えられる。
- 道の駅から約400m南の国道3号線のセンターラインに西落ちの段差が生じていた（写真④-1）。また、付近の歩道橋脇の地盤に亀裂・陥没が生じていた（写真④-2）。

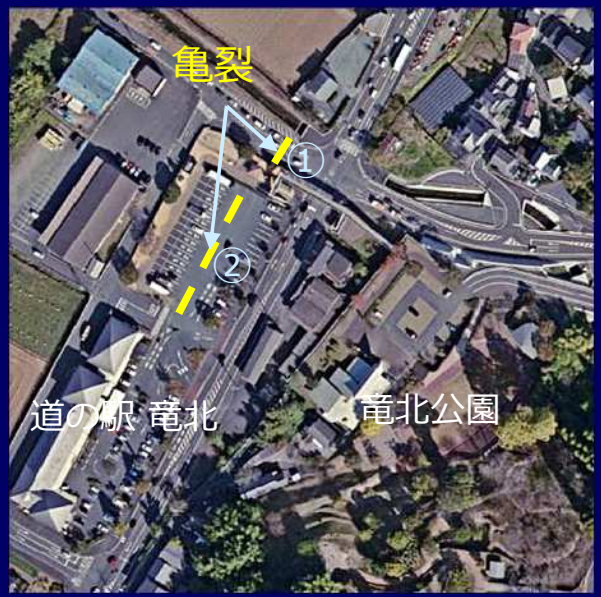


写真- 1　駐車場・道路の亀裂位置*

③-1

*国土地理院地図を抜粋・加筆

地表地震断層

駐車場の亀裂・道路の段差

道の駅 竜北

国道3号線

③ -2

③ -3

④ -1

④ -2

地表地震断層

田畑・道路の亀裂

八代市上片町 妙見第一橋付近

①

②

③

④

- 妙見第一橋から伸びてくる地表地震断層と考えられる地割れ。(写真①)
- 凸型に圧縮された道路。地盤が圧縮され、盛り上がったようである(写真②,③)。
- 九州自動車道の下を横断する道路の縦断亀裂(写真④)。

地表地震断層　用水路・道路の損壊　不知火幹線用水路

①

②

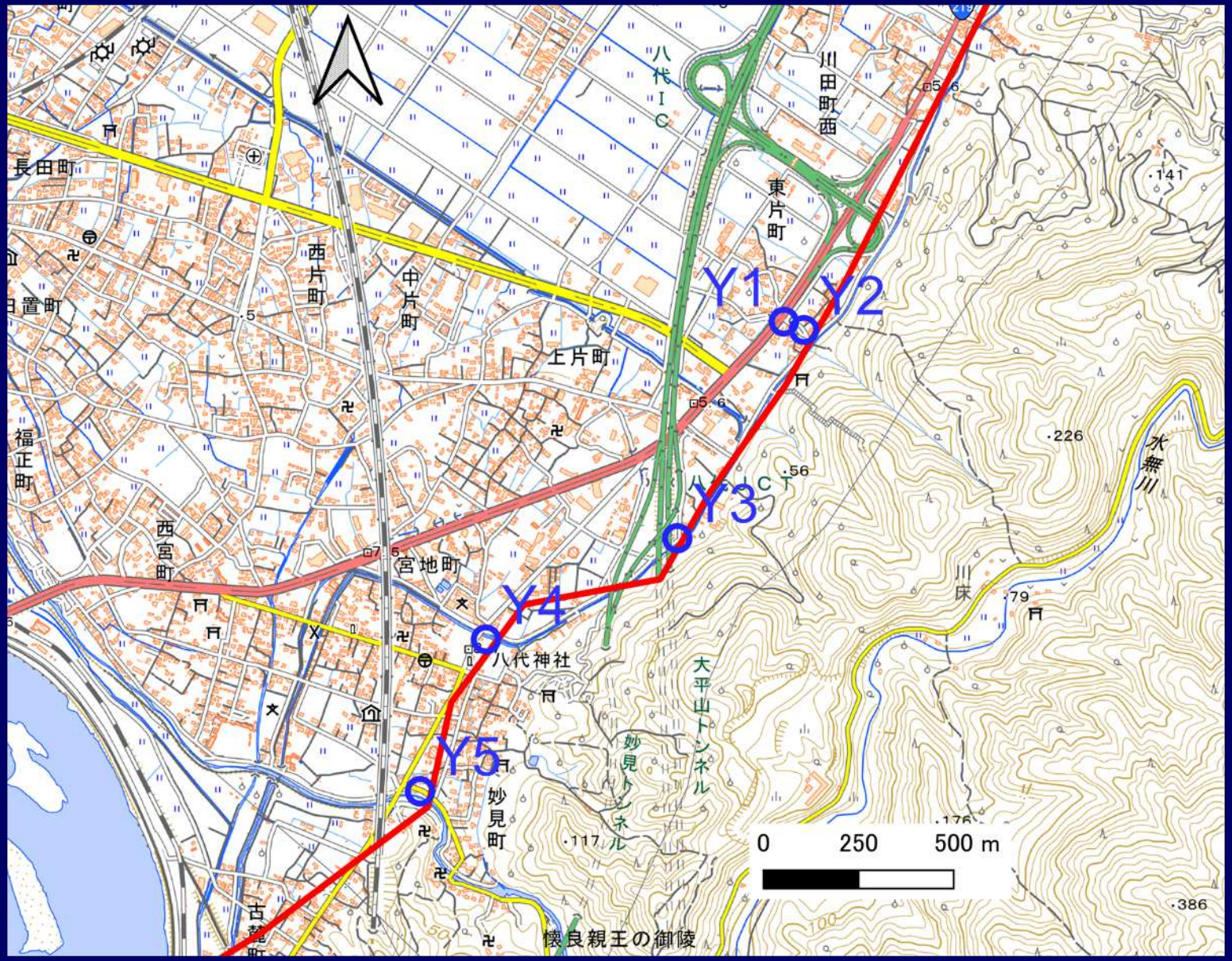
地盤変位境界と調査位置*

- 地震で用水路等の農業用施設が多数被災し、国営八代平野農業水利事業で設置した不知火幹線用水路では複数箇所が損壊した。
- 写真①は水路及び隣接する道路の損壊を示す。
  (九州自動車道妙見第一橋被災箇所の下方)
- 写真②は水路の損壊を示す。
  (九州自動車道片野川橋被災箇所の下方)

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

八代市東片町～妙見町 (Y1～Y5)



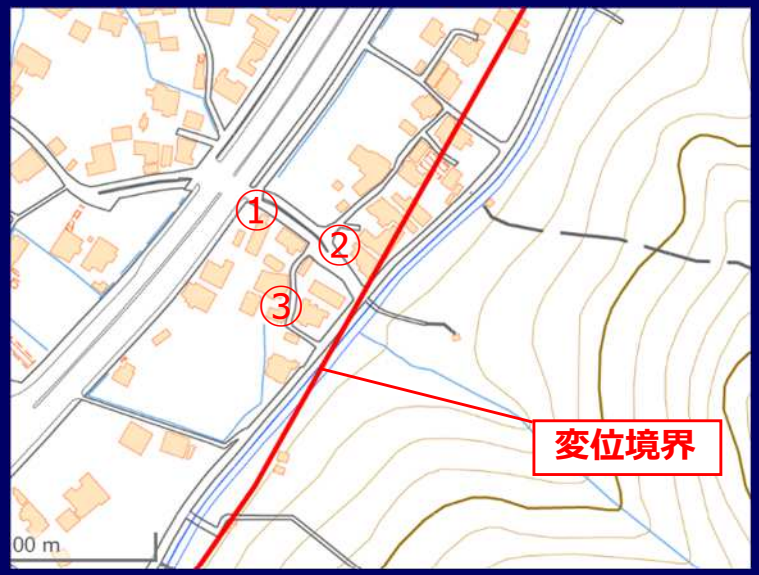
調査位置図*

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

道路・構造物の変状 (Y1,Y2) 八代市東片町

- 道路及び道路脇の構造物に変状が発生した（写真①～③）。



調査位置図*

② Y2地点

① Y1地点

③ Y2地点

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

幹線用水路脇道路の亀裂（Y3）八代市上片町

- 幹線用水路脇の道路に縦断方向の変状が発生した（写真①）。

調査位置図*

①

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

神社境内の亀裂 (Y4) 八代神社(妙見宮)

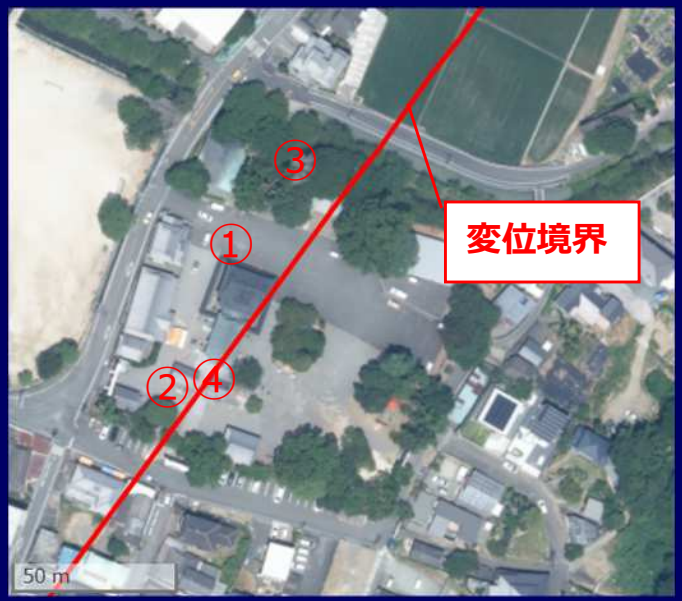
- 八代市妙見町の八代神社において、社殿基礎や駐車場等敷地内に右横ずれを示す亀裂、段差が発生した（写真①～③）。
- 楼門が倒壊した（写真④）。

①

②

③

④



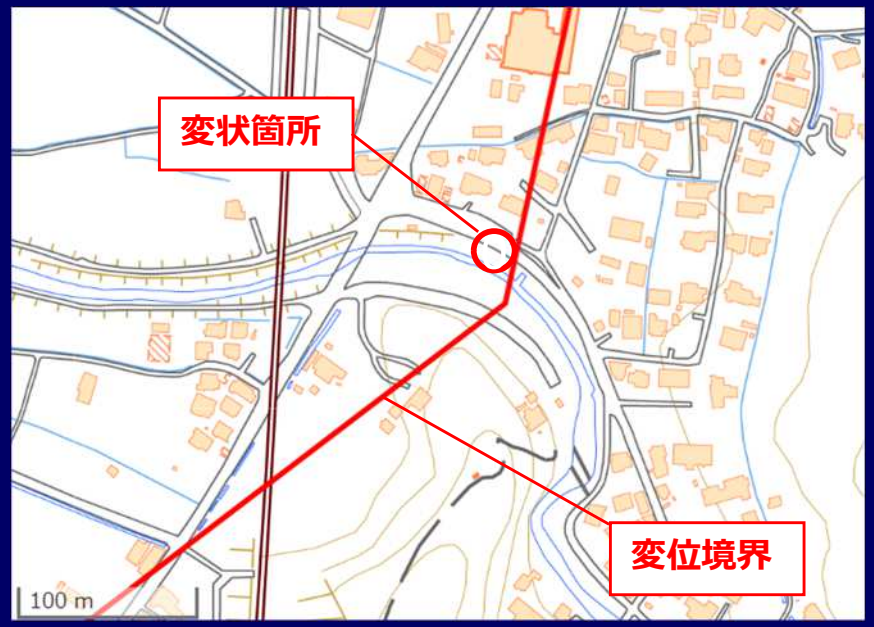
調査位置図*

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）、地理院地図（令和8年熊本地震後の正射画像）」より抜粋・加筆

地表地震断層

道路の断裂・右横ずれ (Y5) 八代市妙見町

- 水無川右岸の県道155号線を横断して、右横ずれを示す亀裂、段差等の変状が発生した（写真①、②）。



調査位置図*

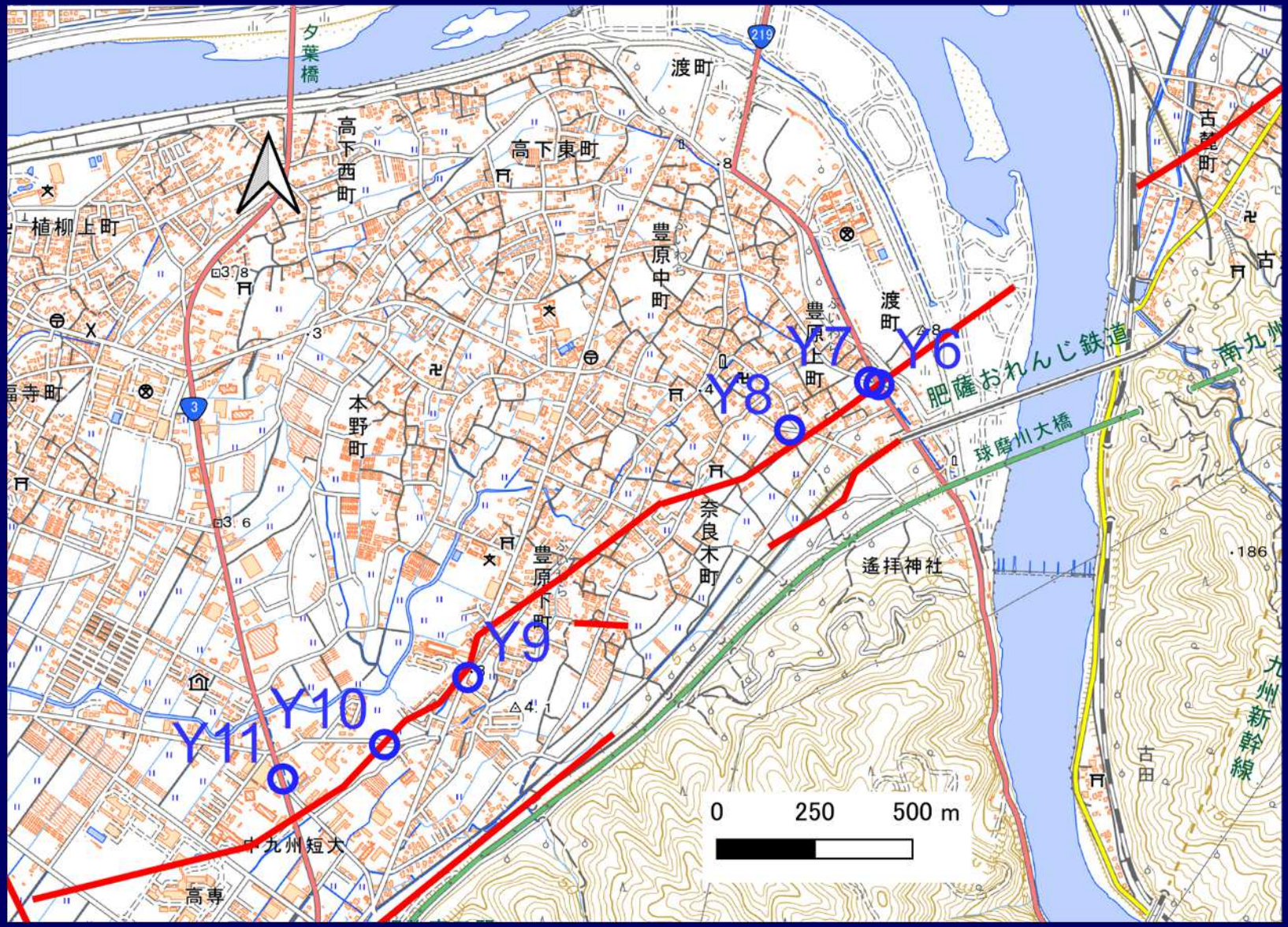
①

②

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

八代市球磨川左岸 (Y6～Y11)



調査位置図*

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

地表地震断層

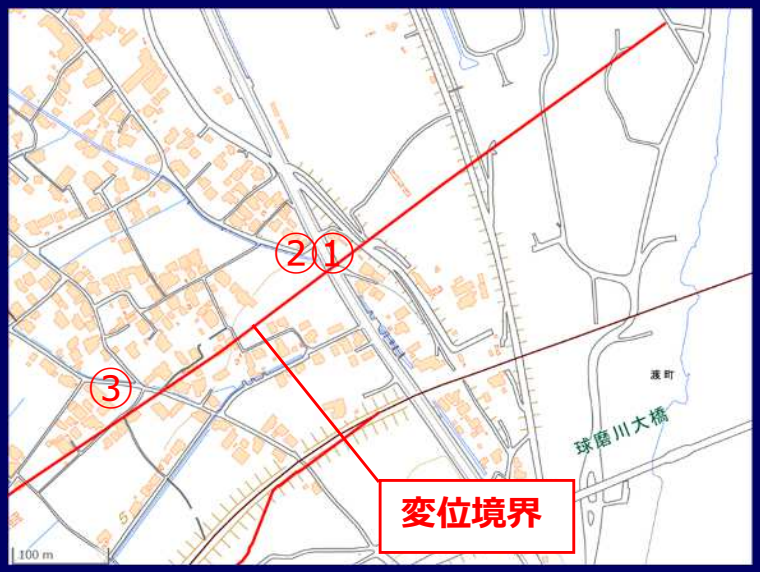
道路の縦断亀裂（Y6～Y8）八代市豊原上町

- 球磨川左岸側の国道219号線（写真①）及びその周辺の用水路（写真②）、道路（写真③）において変状が発生した。

① Y6地点

② Y7地点

③ Y8地点



調査位置図*

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆

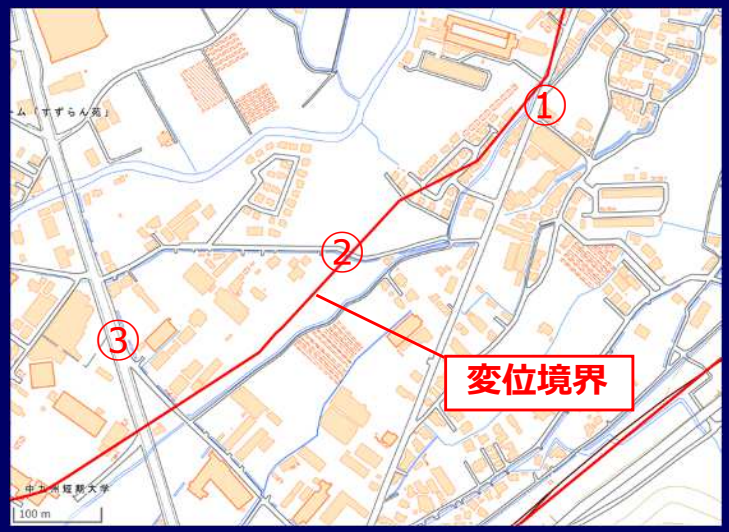
地表地震断層

道路亀裂・水路破断（Y9～Y11）八代市豊原下町

- 道路を横断する亀裂(写真①、③）や水路の破断（写真②）が発生した。

① Y9地点

② Y10地点



調査位置図*

③-1 Y11地点

③-2 Y11地点

＊「国土地理院：令和8年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界（速報）」より抜粋・加筆